

© creative commons

The POWER OF OPEN



العدد ١٥٠٦ - ١١ ذوالحجّة ١٣٧٢
٢١ أغسطس ١٩٥٢

والف فيه نقدا

قاليسن *



 creative commons
The
POWER OF OPEN

ACKNOWLEDGEMENTS

Creative Commons would like to acknowledge the many contributions of staff, consultants, sponsors, and supporters responsible for producing *The Power of Open*. A very special thanks goes to the organizations, artists, and creators who not only share their work with CC licenses, but shared their time and insights to be profiled in this book.

Visit <http://thepowerofopen.org> to download a digital version of *The Power of Open* or to find out how to order print copies.

CREDITS

Text and layout © 2011 Creative Commons Corporation; photo credits appear alongside images throughout the book.

Cover art © 2011 Naeema Zarif (<http://naeemazarif.com>). Created as a special commission for this project.

This book uses two public domain fonts available via The League of Moveable Type: League Gothic and Goudy Bookletter 1911. For more information see <http://www.theleagueofmoveabletype.com>.

The double C in a circle, the words and logotype “Creative Commons,” and the Creative Commons license buttons are trademarks of Creative Commons. For more information, see <http://creativecommons.org/policies>.



Except where otherwise noted, content in *The Power of Open* is licensed under a Creative Commons Attribution 3.0 License. For the terms of this license, please visit <http://creativecommons.org/licenses/by/3.0/>.

ご挨拶

現在、世界はオープン化の大きな潮流の中にあります。アーティストは自分の作品を他のアーティストの創造的活動のためにオープン化し、さらに各国政府は公的支援を受けた作品を公衆が誰でも利用可能とするよう求めています。「共有」の精神と活動はその勢いを増し、多くの成果を生み出しつつあります。



キャサリン・カッサリー、クリエイティブ・コモンズ CEO

クリエイティブ・コモンズは10年ほど前、コンテンツのオープンな共有のためのライセンスを提供し始めました。現在では音楽や写真、さらには大学の授業教材に至るまで、5億以上の作品がCCライセンスを利用して公開されています。クリエイティブ・コモンズは、個人や組織、政府などがその知識や芸術作品、データ等を効果的に共有するための法的、そして技術的な基盤を作り出しました。そしてより重要なことは、数百万人のクリエイター達が全ての人々のためのグローバルな共有地をより豊かにする作品を共有するために、この社会基盤を活用してくれていることです。

『パワー・オブ・オープン』は、そのようなクリエイター達のストーリーを集積したものです。例えばピューリッツァー賞を受賞した調査報道組織である ProPublica (プロパブリカ) は、世界の巨大なメディア企業と協力しつつ、CC を利用した活動を進めています。他では、流浪の映画作家であるヴァンセント・ムーンは、創造性を追求するためのオープンなライフスタイルの中核的要素として、CCライセンスを活用しています。このような活動は、創造的な個人や組織が、自らのコンテンツやアイデアをオープンにすることを選んでいくに従い、より大きく、強力なものとなっていきます。



伊藤 穰一、クリエイティブ・コモンズ会長

今後とも「オープン化」の取り組みは、従来は多くのコンテンツが「All Rights Reserved」の条件のもとでしか利用できなかった世界において、コンテンツの「共有」がデファクト・スタンダードになり得るほどにまで拡大が続いています。さらに刺激的なことは、クリエイティブ・コモンズのツールを利用する事で世界の福祉領域が増大し得ること、そして従来クローズドであった文化や教育、イノベーション政策に対してオープン性の考え方が強い影響を与え始めていることです。

私達は『パワー・オブ・オープン』が、あなたがオープンライセンスの仕組みをよく知り活用していくための一助となり、そしてグローバルな知的共有地に対するあなたの貢献が、世界の全ての人々に対して大きな価値を生み出していくことを期待します。

クリエイティブ・コモンズについて

私達のビジョンは、インターネットの持っているポテンシャルを最大限に引き出すことに他なりません。つまり研究や教育への普遍的なアクセス、文化への全面的な参加、発展・成長・生産性の新しい時代の到来を加速していくことです。

研究、教育、文化への普遍的なアクセスというアイデアは、インターネットの登場によって可能になりました。ですが私たちの法的・社会的なシステムは必ずしもそのようなアイデアの実現を許すものになっていません。著作権はインターネットが台頭するよりも遥か前に作られたもので、ネットワーク上であたりまえのこのように行っている、コピー、ペースト、ソースコードの書き換え、ウェブへの投稿などの行動も、法的には実行しづらいものにしてしまうことがあります。著作権法のデフォルトの設定はこうした行動の全てに対して、事前に、明示的な許諾をもらうことを要求するというもので、あなたがアーティストであっても、教師や科学者、図書館員や議員、あるいは一ユーザーであってもそれは同じです。普遍的なアクセスについてのビジョンを達成するためには、誰かが、インターネットの現実と、著作権法の現実をバランスさせて、無料で公共的で、標準化された基盤を提供する必要があります。その「誰か」がクリエイティブコモンズなのです。

私達のミッション

クリエイティブ・コモンズのミッションは、デジタル時代のクリエイティビティ、共有、イノベーションの最大化を促進・サポートし、そしてそのために必要な法的・技術的な基盤を提供することです。

我々が提供するもの

私達が提供する基盤は、著作権法に基づく伝統的な「All rights reserved」の世界に適切なバランスを作り出すための、著作権ライセンスとツール群から構成されています。

私達のツールは、個人のクリエイターや大企業・組織などすべての人々に対して、その著作権を一定程度保有したまま他の人による利用を可能とする（私達はこれを著作権の「Some rights reserved」アプローチと呼んでいます）ための、標準化されたシンプルな方法を提供します。それは彼らのクリエイティブな、教育的な、科学的なコンテンツを、瞬時にインターネットの真の可能性に適合したものに变化させます。私達のツールとユーザーのみなさまの創造的活動の組み合わせは、あくまで著作権法の枠内でコンテンツが複製され、配布され、編集され、リミックスされ、二次的に利用されるためのプール、成長し続けるデジタルの共有地を生み出します。私達は世界中の著作権のエキスパート達と協力し、CCライセンスを確固とした、世界中で利用可能な、かつユーザーのニーズに適合したものとするための努力を行ってきました。

もしあなたが世界中のどのような企業や組織が、CCライセンスを利用してインターネットの可能性を最大限に引き出しているかをお知りになりたいければ、ぜひ「誰がCCを利用しているのか？」のページをご覧ください。

さらに自らの著作権を完全に放棄し、そしてデータの相互利用の可能性を最大化させたいと考えているクリエイターの皆様のためには、クリエイティブ・コモンズはその作品をできる限り完全にパブリック・ドメインに置くことを支援するためのツールも提供しています。



私達のビジョンは、インターネットの持っているポテンシャルを最大限に引き出すことに他なりません。つまり研究や教育への普遍的なアクセス、文化への全面的な参加、発展・成長・生産性の新しい時代の到来を加速していくことです。

私たちの向かう先

私たちがクリエイティブ・コモンズで行うのはあくまで基盤を作ることです。そしてその上に共有地を築くのはユーザーのみなさまです。私たちはツールが広く受け容れられるように、またユーザーのみなさまの声を聞き、サポートし、そして相互に利用可能な共有地の基盤の信頼できる提供者となることができるよう、努力を続けていきます。

あなたのサポート

オープンなコンテンツで満たされ、そしてユーザーが革新的な文化、教育、科学に積極的に参加することが可能なインターネットのビジョンを実現するためには、インターネットの可能性を信じるみなさまのご支援が不可欠となります。私達がこれまで行ってきた活動は、世界中のみなさまからの絶大なご支援によって初めて可能になったものです。ぜひ友人や家族にCCのことを広め、そしてクリエイティブ・コモンズが確固とした安定的な組織であり続けられるよう、寄付等のご支援をお願いします。

日本においてクリエイティブ・コモンズの活動を行っているクリエイティブ・コモンズ・ジャパンは、特定非営利活動促進法に則り東京都の認証を受けたNPO法人です。

クリエイティブ・コモンズ・ ライセンス

クリエイティブ・コモンズは、個人のクリエイターや大企業・組織など全ての人々に対して、自らの創造的作品について他者に自由な複製・配布・その他の二次利用を許諾しつつ、著作権者のクレジット表記を保ったままでの利用許諾を行うための、シンプルで標準化されたツールを提供しています。利用許諾を行う側の人は、どのようなタイプの利用許諾を行うかについての幅広い選択肢を有しています。

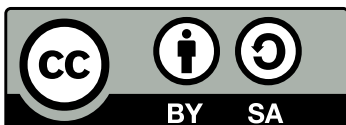
クリエイティブ・コモンズ・ライセンスは、ユニークな「3つのレイヤー」の仕組みを持っています。まず全てのライセンスは、世界中で適用可能な伝統的な法的ツールである「リーガル・コード・レイヤー」を含んでいます。これに加えて「ヒューマン・リーダブル」、つまりよりユーザーフレンドリーな、多くのクリエイターにとって読み易い言葉で記述されたレイヤーが付け足されています。最後のレイヤーは「マシン・リーダブル」、つまりソフトウェアや検索エンジンなどが処理することができるよう設計されており、CCライセンスで公開されたコンテンツが検索エンジン等によって発見されることを容易にしています。

これらの3レイヤーが一体となり、その作品の権利の性質が法律家にしか理解できないものにならず、作品を作ったクリエイター自身やユーザー、そしてウェブそのものにとって容易に理解可能であることを担保しています。



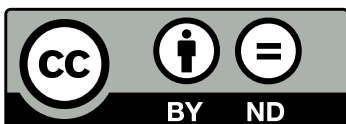
表示 (Attribution) CC BY

このライセンスは、著作権者のクレジットを適切に表示することを条件として、その作品の配布、リミックス、二次的著作物の創造、そして営利的な利用を許諾します。これはCCが提供しているライセンスの中では最も柔軟な利用を許諾するものと言え、作品の最大限の拡散と利用が行われることを希望する場合に推奨できます。



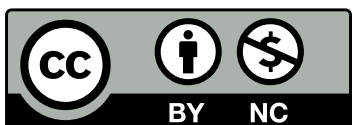
表示—継承 (Attribution-ShareAlike) CC BY-SA

このライセンスは、著作権者のクレジットを適切に表示し、かつ二次的著作物にも同様のライセンスを付与することを条件として、その作品の配布、リミックス、二次的著作物の創造、そして営利的な利用を許諾します。これはよくフリー・オープンソースソフトウェアにおいても用いられる「コピーレフト」ライセンスと対比されます。あなたの作品に基づいて作られた全ての新しい作品は同様のライセンスが適用され、全ての二次的著作物は同様に商業的な利用も可能となります。このライセンスはWikipedia (ウィキペディア) でも採用されており、Wikipediaや同様のライセンスを採用しているプロジェクトからのコンテンツを取り込んで制作されるコンテンツに利用する事が推奨されます。



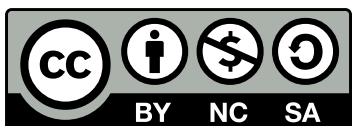
表示—改変禁止 (Attribution-NoDerivs) CC BY-ND

このライセンスは、著作権者のクレジットを適切に表示し、かつ改変を行わないことを条件として、その作品の再配布、営利的・非営利的な利用を許諾します。



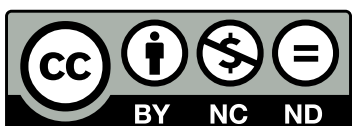
表示—非営利 (Attribution-NonCommercial) CC BY-NC

このライセンスは、著作権者のクレジットを適切に表示し、かつその利用が非営利である事を条件として、その作品のリミックスや二次的作品の作成等を許諾します。ただし、このライセンスが付いた作品を元にして作られた二次的作品には同じ条件を付される必要はありません。



表示—非営利—継承 (Attribution-NonCommercial-ShareAlike) CC BY-NC-SA

このライセンスは、著作権者のクレジットを適切に表示し、かつ二次的著作物にも同様のライセンスを付与することを条件として、非営利の場合に限り、その作品の配布やリミックス、二次的著作物の作成を行うことを許諾します。



表示—非営利—改変禁止 (Attribution-NonCommercial-NoDerivs) CC BY-NC-ND

これは6つのライセンスの中では最も制限的なライセンスと言えます。著作権者のクレジットを適切に表示する事を条件として、その作品のダウンロードや再配布を許諾しますが、その作品を改変したり、営利的な利用に用いたりすることはできません。

その他にもクリエイティブ・コモンズは「all rights granted」、つまり全ての権利が存在しないパブリック・ドメインのためのツールも提供しています。「CC0」は、著作権者がある作品に関わる著作物の全てを放棄し、パブリックドメインに置くことを手助けするツールです。さらに「パブリック・ドメイン・マーク」は、ウェブユーザーがパブリックドメインの著作物にそれを示す「マーク」を付けることを手助けします。




CC0 パブリック・ドメインへの寄進 (CC0 Public Domain Dedication)

CC0ライセンスは、著作権で保護されたコンテンツの所有者が、その著作物に関わる著作権を放棄し、できる限り完全にパブリックドメインの領域に置くことを可能とします。他の人はいかなる著作権法上の制約も受けず、いかなる目的であってもそれを使って自由に二次創作をしたり、再利用を行ったりすることができます。クリエイティブ・コモンズのその他のライセンスが、著作権者が多様な幅の中から許諾条件を選ぶ事を可能としているのに対し、CC0はもう一つの選択肢、つまり著作権及び権利者に対して自動的に与えられるその他の権利を完全に放棄するという選択肢を提供しているのです。



パブリック・ドメイン・マーク (Public Domain Mark)

パブリック・ドメイン・マーク(PDM)は、既にパブリックドメインに置かれている作品に対してユーザーがそれをマーク付け(タグ付け)し、パブリックドメインの状態を世の中に対して正しく知らせると同時に、それが発見されやすくなるためのツールです。PDMはその他のCCライセンスやCC0と異なり法的なツールではなく、既にパブリックドメインに置かれている作品にラベル付けをすることにより、それが誰の著作物のように利用されてしまうことを防ぐためのものです。それに加えてCC0やその他のライセンスと同様に、PDMもマシン・リーダブルな記述(メタデータ)を備えており、PDMが貼付けられた著作物は検索エンジン等を利用してインターネット上で発見されることが容易になります。



ジューン・コーエン TED トーク

自由にアイデアを広げる

ニューヨーク

いまやウェブに欠かせない存在となったオンライン動画配信プロジェクトのTEDトークは、当初は一部の限定された人たちを対象としたセミナーとして始まりました。TEDトークの講演者たちはそれぞれの革新的なテーマについて講演し、TEDトークがすべてクリエイティブ・コモンズのライセンスによって配信されてから5年間で、2億人以上の聴衆により視聴されています。

「この驚異的な普及は、TEDトークがオープンで無償の配信によって公開されたことによるところが大きく、CCライセンスは私たちだけの力では及ばないレベルまでTEDトークの普及を推し進めてくれました。」とTED Media 制作責任者のジュネ・コーエンさんは言います。

そしてコーエンさんは続けます。「私たちが、自らのコンテンツを公開すると決めたのは、アイデアを広めるという目的があったからです。私たちの取った決断はすべてその目的に基づいています。その意味でもクリエイティブ・コモンズは最も効率良くTEDトークの普及を促進し、かつ私たちの動画コンテンツがどのように使われるべきかという議論を行う必要性から解放してくれました。」

さらに、コーエンさんは続けます。「オンライン配信の決定は、とても物議を醸しました。それによって、人々がカンファレンス費用の支払いを拒んだり、講演者に拒否されたりして、このプロジェクト自体が破綻してしまうのではないかと懸念されました。」

「初めてTEDトークのコンテンツを無料でリリースしてから一年後にカンファレンス料金を50%値上げしましたが、それにもかかわらず参加チケットは1週間で完売し、さらに1,000名の順番待ちが発生しました。講演者たちがトーク内容が早急に掲載されることを求めただけでなく、カンファレンス料金を払って参加していただいた人々は会場で聞いたばかりの講演を自分の家族、友人や同僚に伝えたいと切望していました。」と、コーエンさんは言います。

TEDトークがスウェーデンの医師で統計学者のハンス・ロスリング(Hans Rosling)さんの特集した際の彼の発展途上国についての発表は、CCライセンスがある課題を世に広める手助けになるという良い例を示しています。「自分のTEDトークがオンラインで公開されたことは、それまで行ってきたどの活動よりも自分のキャリアに影響を与えたとハンスは私に言いました。」とコーエンさんは言います。「そのことが彼にとつてまったく新たな世界を開いたのです。」

「私たちが意図していた以外の結果も非常にポジティブなものでした。」とコーエンさんは言います。「TEDの成長だけでなく、世界中の視聴者がひとつのグローバルなチームとなり、TEDのブランドを受け入れ、さらなる革新を促しているのです。クリエイティブ・コモンズ・ライセンスを使うことによって、私たちがアイデアを普及させることについて真剣であることを明確に視聴者に伝えられたのです。」

「この驚異的な普及は、TEDトークがオープンで無償の配信によって公開されたことによるところが大きく、CCライセンスは私たちだけの力では及ばないレベルまでTEDトークの普及を推し進めてくれました。」

詳細
<http://www.ted.com/talks>



ジョナサン・ワース

プロカメラマンのための新しい活動のかたち

ロンドン

英国のカメラマン、ジョナサン・ワース(Jonathan Worth)さんの作品はロンドンのナショナル・ポートレート・ギャラリー(National Portrait Gallery)に展示されています。ワースさんは英国コヴェントリー大学で写真を教えていて、コリン・ファース(Colin Firth)、レイチェル・ハンター(Rachel Hunter)、ジュード・ロウ(Jude Law)、ヒース・レジャー(Heath Ledger)を撮ったこともあります。また、デジタル時代におけるプロの映像作家達の活動のあり方を模索する写真家グループの一員としても活動しています。

ワースさんは他のプロカメラマンと同じく、自分の作品が盗まれないようにインターネットで何時間もの時間を費やしていました。自分の著作権を守るために膨大な時間を使っていることに怒りすら感じていました。そんなとき、「私は、SF作家コリー・ドクトロー氏と偶然出会い、彼が自分の本を無料で配って利益を得ていることを知りました。私は彼の写真を撮ったことがあり、そのときに、その仕組みについて尋ねてみました。すると、彼は自分もやってみたらどうかと言ったのです。」

というわけで、ワースさんはやってみることにしました。クリエイティブ・コモンズのBYライセンスを画像につけ、高解像度のコピーをオンラインで無料提供し、そのうえでサインを書いた印刷物を価格帯も販売枚数いろいろ変えて販売しました。「最も高いものが最初に売れました。私のことは誰も知らないのに、私の作品に高いお金を支払ってくれたのです。」とワースさんは言います。

ワースさんはドクトロー氏に、デジタルの世界の新たな見方とデジタルの中で人がとる行動について教えられました。「私の作品を無料で使う人々の能力をどう向上させられるのかが分かるようになりました」とワースさんは言います。「波が手紙の入った瓶をどこにでも持って行ってしまいうように、そのような力を利用することで利益を得ることができます。」

「クリエイティブ・コモンズによって私は既存の構造をとともスムーズに利用してデジタル世代のソーシャルメディアの習慣に対応できるようになりました。」とワースさんは言います。「情報は同じですが、その配信の方法が変わったのです。私たちは答えを全て持っているわけではありませんが、CCは私自身の発信方法を選ばせてくれ、私が不本意に思う事態から身を守るための手伝いをしてれています。」

「私たちは答えを全て持っているわけではありませんが、CCは私自身の発信方法を選ばせてくれ、私が不本意に思う事態から身を守るための手伝いをしてれています。」

詳細

<http://www.jonathanworth.com>



ニナ・ペイリー

オープン配信讃歌を歌う

ニューヨーク

「ファンと同じ側に立っている事を感じられるのは素晴らしいことです」と、ニューヨーク市在住の映画製作者兼漫画家、そしてオープンライセンスの代弁者のニナ・ペイリーさんが言います。ファンと対立してしまうアーティストがたくさんいますが、ペイリーさんはアーティストが自分の作品を共有することによる利点だけを見ることができます。そう、利点のひとつは利益です。

ペイリーさんは段階的にオープンに転向してきました。若い漫画家のときには、知的財産を作るという考えは自分の価値を高めてくれるように見え、その思いは常に強化されていきました。「皆が著作権がどのように自分を保護し社会地位を与えてくれるのかということについて教えてくれたので、著作権が存在しない世界はほとんど不可能だと思っていました」とペイリーさんは言います。

2008年に、自作のアニメ映画『Sita Sings the Blues(シタ、ブルースを歌う)』の公開が、80年前に歌われたあまり知られていない歌手アネット・ハンショー(Annette Hanshaw)の数曲のライセンスが法外な費用だったために遅れました。「私の映画がまだ不法で、ライセンス費用と訴訟費用で大赤字を出していたとき、私はその映画が無料だったらTシャツを売ることができたのにと冗談を言ったものです」とペイリーさんは思い出します。そのアイデアがその後も気になり、フリーソフトウェアで人々がどのようにして生計を立てているのか調べました。「商品とボランティアの支援によって実際に利益がうまれている事に気付きました」とペイリーさんは言います。

『Sita Sings the Blues』がやっと公開され、ロジャー・エバート(Roger Ebert)ら批評家の称賛を受けました。この映画は、クリエイティブ・コモンズ・ライセンス BY-SA のもとでだれでも無料でダウンロードできます。DVDを購入することもできます。archive.org やユーチューブ、多数の torrent サイトを通して世界中で数百万回以上視聴されています。

ペイリーさんはアートを金銭的に評価するために資金がどのように使用されているかについて異論を唱えています。「アーティストが無一文であるとき、それはそのアーティストの作品価値と関連があると思われるかもしれませんが、そうではありません。」と彼女は言います。「支払いを受けない限り、作品の製作を拒否するアーティストを何人も見てきました」。ペイリーさんにとってはその逆が真実です。「クリエイティブ・コモンズ・BY-SAライセンスを使いはじめたとき以上の収益をこれまで得た事はありません。私はよりよい評判を得たのです。販売プロモーションに予算を費やしていません。ファンが私のためにプロモーションを行ってくれ、その上商品を購入してくれているのです。共有することによって私は有名になったのです」

「クリエイティブ・コモンズ・BY-SAライセンスを使いはじめたとき以上の収益をこれまで得た事はありません。私はよりよい評判を得たのです。販売プロモーションに予算を費やしていません。ファンが私のためにプロモーションを行ってくれ、その上商品を購入してくれているのです。共有することによって私は有名になったのです。」

詳細

<http://www.ninapaley.com>



リチャード・トフェル & スコット・クライン

PROPUBLICA

ストーリーの共有によるニュースの作成

ニューヨーク

ピューリッツァー賞を受賞している調査報道組織・プロ・パブリカ(Pro Publica)は、「影響力のある記事づくりを追求する」という使命を掲げ、2007年に設立されました。「より多くの人に私たちの記事を読んでもらうことが、私たちの使命を果たすことに役立つということは分かっていました」と、ゼネラル・マネージャーのリチャード・トフェル(Richard Tofel)さんは語ります。ただ、実際にどういった方法をとれば、読者が簡単に記事の複製をするための許可を与えられるのかは、はっきりしていませんでした。

「私たちが設立初期に採用した2人のスタッフが、クリエイティブ・コモンズのことを知っていて、クリエイティブ・コモンズを活用することが、記事の共有という、私たちの使命を果たすのに最善の方法であると提案してきました」と、トフェルさんは言います。「これまで、とても良い成果がでており、おかげで膨大な時間を節約することができています」。

ProPublica のニュース・アプリケーションの編集者スコット・クライン(Scott Klein)さんは、設立初期にCCライセンスの利用を提唱した一人です。クラインさんいわく、「ウェブサイトこそが、私たちの舞台です。より強い影響力を与える助けになるのであれば、記事の共有については全く心配していません」。クリエイティブ・コモンズ・ライセンスは、交渉の必要なしに、読者にProPublica の記事を再発行する権利を与えてくれます。「このような権利がないと、読者は私たちに電話して、私たちに記事とその利用の仕方について尋ねなければなりません」とクラインさんは言います。「それでは手間がかかりすぎます」

Pro Publicaは、米国最大の調査報道組織のひとつとして、取材するそれぞれの分野に常に大きな影響力を与えてきました。米国内の大手報道機関と協力することで、カリフォルニアでの看護師の資格付与にまつわる問題点を暴露したり、ニューオーリンズにハリケーン・カトリーナが襲った後発生した、警察官らが関与した発砲事件について取り上げるなどして、注目を集めました。タイム誌に提供した記事で、カトリーナが襲ってから数日後のニューオーリンズ病院での、傷病者の救命の順序を決めるトリアージ(救急識別判断)についての調査報道でピューリッツァー賞を受賞しました。さらに今年に入ってから、ProPublica のジェッシー・アイジinger(Jesse Eisinger)記者とジェイク・バーンSTEIN(Jake Bernstein)記者が金融業界についての報道で、2011年ピューリッツァー賞を、国内報道分野で受賞しました。

「重要なのは情報そのものではなく、情報が与える影響力なのです」、クラインさんは言います。「私たちは著作権の図書館を作りたいわけではありません。共有することは私たちの組織の文化であり、CCはその大きな部分を占めているのです」

トフェルさんは、「クリエイティブ・コモンズは私たちの記事の読者を増やすことを助け、また個々の記事の影響力を高めてくれます」と、クラインさんの意見に同意しながら言います。「それに加え、私たち自身の使命を再確認する助けにもなっています。それは、個々の記事にとっても、組織としてのプロ・パブリカの将来にとっても、有益なことなのです」

「私たちは著作権の図書館を作りたいわけ
ではありません。共有
することは私たちの組
織の文化であり、CCは
その大きな部分を占
めているのです」

詳細

<http://www.propublica.org>



YUNYU

たくさんの嬉しい驚き

オーストラリア・ニューサウスウェールズ

オーストラリアの作詞家でミュージシャンのYunyu にとって、メディアの混合は自然なことです。彼女は、他のアーティストやファンとの作品の共有を恐れることはなく、むしろ、それは彼女の創作過程をより生産的にしています。

Yunyu は、SF 小説家マリアン・デ・ピエール (Marianne de Pierre) とのコラボレーションとなった、青少年向け小説の挿入曲として曲を書き録音し、成功へと結びつきました。このとき、彼女は音源にオープン・ライセンスをつけました。「クリエイティブ・コモンズ・ライセンスで自分の音楽を無料で公開するということが周知されることで、精神的な芸術面でのつながりをもたらしたと思います。」と、言います。

彼女が、CCライセンスを利用するという決定をしたのは、当初、音楽の可能性の探求の一環としてでした。「私は、自分の音楽がどうなるのか可能性を知りたかったのです。私が、音楽を無料で公開したら、人々がそれをどのようにするかを知りたいのです。」と、言います。

「CCライセンスの利用により、何が期待できるのかはまったくわかりませんでした。嬉しい驚きがありました。」と、彼女は言います。ファンが、彼女の歌でビデオをつくり、YouTubeに投稿し始めました。また、デトロイトのある若い女性は、歌詞をいくつか使ってポートレートをつくり、それが人気のあるSF ウェブサイトに掲載されました。さらに、フランスの女性バンドが彼女の歌を録音したことで、ビデオゲームのデザイナーが、彼女の音楽のライセンスに興味を持ちました。

「作家の視点から言うと、音楽産業はクリエイティブ・コモンズ・ライセンスの反響と十分な意義についてまだ懸念しており、オープンライセンスについて話し合うのは難しいことです。クリエイティブ・コモンズの精神をどのようにして前進させるかについて、業界との親交を深めたいと思っています。自分の作品がどのように解釈され演奏されるかを、そして非営利のレベルで楽しむことまでコントロールしようとするのは、きりのない無駄な努力だと言っていいでしょう」と言います。

「アーティストには、ある程度の基本的な保護が必要で、音楽の利用がアーティストに対して商業的に還元されることが必要ですが、それ以上の保護が必要だとは思えません。ファンは、作品を共有しリミックスするほど楽しんでいるのですから、そのようなファンに、アーティストが自己の利益を追求するなんて、想像もできませんし道理にかないません。」

「クリエイティブ・コモンズの精神をどのようにして前進させるかについて、業界との親交を深めたいと思っています。」

詳細

<http://www.yunyu.com.au>



世界中でミックスアップ

ベルリン&ロンドン

DJヴァディムさんはレニングラードで生まれ、ロンドン育ちで、現在ではヒップホップと電子音楽の分野において世界的な影響力を持っています。プロデューサーとして活動し、スティービー・ワンダー、ザ・ルーツ、プリンス、パブリック・エナミーといった伝説的なアーティストと共演してきました。彼はまたさまざまなアーティスト名で自分のアルバムを数多くリリースしています。

ヴァディムさんがインスピレーションを求めたり新しい才能を探すときには、コミュニティ・リミックス・サイト ccMixerを利用して、ほかのプロデューサーが彼のクリエイティブ・コモンズ・ライセンスのついたトラックをダウンロードして好きなように作り替えることができるようにしています。

ヴァディムさんのccMixer コンテストから3,000人がトラックをダウンロードし、500曲以上のリミックスが生まれました。DJヴァディムのレコードレーベル Organically Grown Sounds (OGS) で働いているベン・ドーソンさんはこう言います。「人々は自分のリミックスをアップロードして友人と共有しています。それによって音楽への注目度が高まっています。これは人々が音楽とかかわり合いをもつためのすばらしい方法で、ラジオで音楽をただ聞くだけよりも感情や愛情、魂を込めることができます」

「ヴァディムさんは常に世界中を旅して、ボーカリストやミュージシャン、DJらとコラボしたり意見を交わしたりして、音楽制作のフィードバックを与えています」とドーソンさんが言います。「今インターネットによってたくさんの方が提供されていて、ccMixer やその他の素晴らしい音楽プラットフォームでこのようなことができるようになっています」

ヴァディムさんはこのような共同作業が重要だと考えています。「OGSは共同作業に基づいており、世界を旅して出会った人々と楽曲を作ります。音楽は創作者と聞き手の対話で、それぞれが自分の経験を持ち寄って作られていくものなのです。」

DJ ヴァディム

「音楽は創作者と聞き手の対話で、それぞれが自分の経験を持ち寄って作られていくものなのです」

詳細
<http://www.djvadim.com>



ソラナ・ラーセン GLOBAL VOICES

ニュースを広める

グローバル

大きなメディアは世界の出来事に関して、深く掘り下げた情報配信までは行き届かないことがあります。それに比べて、地元ブロガーや市民ジャーナリストは、彼らが記事にしようとする話題に、かなり敏感に反応します。ジャーナリスト、レベッカ・マッキノン(Rebecca MacKinnon)さんが始めた非営利団体 Global Voices(グローバル・ヴォイス)は、350人の世界中の編集者・ボランティア作家・翻訳者に、それぞれのコミュニティのニュースをひとつの場所に集められるプラットフォームを提供しています。これらのジャーナリストは、ハイチの地震からイランの反対運動まで、すべてにわたってタイムリーで詳細な報道を提供してくれます。すべてのコンテンツはクリエイティブ・コモンズ:BYライセンスで提供されており、情報を自由に翻訳したり発信したりできるので、テレビニュースで報道された映像や情報以上のものを人々に提供することができます。

昨年12月、チュニジアで、失業に対する反対運動が暴動に発展したとき、GlobalVoices では、関連する数十件の自殺に関する記事や、アラビア語から翻訳された一般市民の証言や、他の報道よりもいち早い現場からのつぶやきなどが掲載されました。そして、CCライセンスのお陰で、Global Voicesの記事はニューヨーク・タイムズ、ロイター、AlterNet、オブラ・ウィンフリー・ネットワークに再掲載されました

Global Voices は事務所がないバーチャル非営利団体ですが、無数の場所の日常生活に影響を与えています。「クリエイティブ・コモンズによって、毎日数多くの言語へ翻訳される機会が増えることが促進されています。また、非営利団体や大手マスコミから掲載を依頼されたときは、必ずCC条項を順守しています。それによって再掲載や翻訳が可能になり、世界に会話を広げることができます」とGlobalVoiceの編集長ソラナ・ラーセン(Solana Larsen)さんは言います。

「クリエイティブ・コモンズによって、毎日数多くの言語へ翻訳される機会が増えることが促進されています」

詳細

<http://globalvoicesonline.org>



小さな出版社による大きな変化

バンガロール&ニューデリー

インドにある小さな非営利の出版社、プラサム・ブックス (Pratham Books) には「すべての子供の手に書籍を」というシンプルで大きなミッションがあります。このミッションは自分たちの限られた力だけでは達成できない「大きくて大胆な目標」であることは認識していましたが、プラサム・ブックスは、2008年から、本やイラストにクリエイティブ・コモンズ・ライセンスをつけ、FlickrやScribdで共有し始めました。プラサム・ブックスの新規プロジェクト担当マネージャー、ゴータム・ジョン (Gautam John) さんは「我々のような小さな出版社は、コンテンツを使いたいと言ってくる人が出てくるたびにライセンスをカスタマイズするほどの処理能力を持ち合わせていません。クリエイティブ・コモンズ・ライセンスを使うことによって、法的な交渉に関係する業務やそれらの業務に必要な時間や費用を省いて複数のパートナーと協働できるようになりました。」その代わりにプラサム・ブックスがすることは、本とライセンスページをダウンロードするリンクをユーザーに送信することです。この作業はジョンさんによると「すべて1分ほどで終わる」ということです。

CCを利用することは小説の再利用につながり、一般コミュニティとの関わりが増えました。「私たちのコミュニティはiPadやiPhoneアプリの作成をはじめ、OLPCに作品をポーティングしたり、既存イラストを使ってまったく新しい本を作ったりと、いくつもの派生作品を創ってきました。」とジョンさんは言います。「色々な団体や個人が我々の書籍をオーディオ・ブックやBraille、DAISYへと変換し、視覚障害者もコンテンツにアクセスできるようになりました。これは、クリエイティブ・コモンズ・ライセンスが無ければ不可能でした。私たちは、すべての派生作品ができたのは、クリエイティブ・コモンズのライセンスモデルがあったからだと思っています。クリエイティブ・コモンズのライセンスがなければ、膨大な作業をこなす費用もなく、これらの一般コミュニティと関わることはあり得ませんでした。」

また、これによってプラサム・ブックスの知名度が高まり、小さな出版社でも目標を達成しやすくなりました。より多くの人々がプラサムのコンテンツを再利用するほど、会社が直接関与するか否かはあまり大きな問題ではなくなります。FlickrなどのプラットフォームにCCライセンスをつけて作品をアップすることで、会社にどのようなことがあるともそれらの本に確実にアクセスできるようにプラサム・ブックスは保証しています。「私たちの書籍は現在複数のレポジトリで保管されているのでユーザーによるアクセスは常に担保されており、また、会社の存続に頼る必要もありません。これによって、一般コミュニティが我々の承認を必要としたり、承認を待ったりすることなくコンテンツや書籍を使うことができます。」とジョンさんは言及します。

プラサム・ブックスは保存された資料を集約し、CCライセンスを持つ作品のアーカイブ化に取り組んだり、再利用やリミックス用の新たなプラットフォーム構築のプランを立てることに注力することができます。「私たちのような小さな組織にとって時間は本当に大切です。私たちの場合、クリエイティブ・コモンズ・ライセンスの利用は、たくさんある利点の中でも特に時間、経費、労力の節約に役立ちました。」

「私たちのような小さな組織にとって時間は本当に大切なので、「クリエイティブ・コモンズ・ライセンスの利用は特に時間、経費、労力の節約に役立ちました」

詳細

<http://prathambooks.org>

パトリック・マックアンドリュース

THE OPEN UNIVERSITY

教育を更新する

英国ミルトン・キーンズ

オープン・ユニバーシティ(The Open University)は学業成績や社会的状況に関係無くあらゆる学生に入学を認めています。同大学は世界最高峰の成功した遠隔教育大学で、最大規模であり、40カ国で25万人以上の学生が学んでいます。

2005年には、オープン・ユニバーシティはあたらしいウェブサイト OpenLeam でそのオープン性をさらに一歩進め、コース資料の公開アクセスを提供し、それらにはクリエイティブ・コモンズ(CC)ライセンスによる再利用許諾を与えました。CCライセンスを利用するという選択により独自の許諾機構の開発をさけることで、同大学では多額の弁護士費用を節約できました。

「もともとは OpenLeam の実現可能なライセンスを作成するための弁護士費用として10万ポンドを予算計上していましたが、CCを導入したのでその予算はまったく使用されていません」と Learning & Teaching の副所長パトリック・マックアンドリュース氏はいいます。CCライセンスは大学がコース学習資料を作成したり第三者プロバイダーと取引をしたりするときの予算節約にも役立ちました。「CCのような公知のライセンスの利用はパートナーと協力関係を結ぶときに役立ちました。基本的には、利用する人に独自に作成したライセンスを適用するように依頼するよりも、独立したCCの情報を教える事ができました」

OpenLeam の開始以来、200万人以上の訪問者が訪れ、そして、オープン・ユニバーシティのコース資料は iTunes U で2,000万回以上ダウンロードされており、このアップルのサービスで最も多くダウンロードされている大学となっています。

CCによって、コンテンツの翻訳やプラットフォーム横断的な資料の再利用ができるようになりました。「オープンな教育教材のパワーはその公開性にかかっています」とマックアンドリュース氏は言います。「オープンさによって、柔軟性が高まります。たとえば、Moodle で構築された OpenLeam 環境で公開した資料は WordPress や Slideshare, YouTube などどこでも利用できるようになります。OpenLeam にある資料は技術やフォーマットの観点からさまざまな方法で取り出したり転送できます。その転送性も資料として解釈されたり資料を持ち歩いたりするのもライセンスが必要ですが、CC がそれにつかえます。」

「もともとは OpenLeam の実現可能なライセンスを作成するための弁護士費用として10万ポンドを予算計上していましたが、CCを導入したのでその予算はまったく使用されていません」

詳細

<http://www.open.ac.uk>



ザディ・ディアス
スティーブ・ウルフ
EPIC FU

ポップカルチャーの拡大

ロサンゼルス

2006年の開局以来高い人気を誇るウェブ・ビデオ番組であるEpic Fuは、毎週視聴者に向けて音楽やアート、文化についての楽しいニュースを提供しています。Epic Fuでは当初から、クリエイティブ・コモンズの活用が大きな役割を担っていました。プロデューサーのザディ・ディアス(Zadi Diaz)さんやスティーブ・ウルフ(Steve Woolf)さんは、CCライセンス下にある音楽やビデオのコンテンツをサイトで普段から番組で使用しており、配信されたすべての回はクリエイティブ・コモンズ:BY-NC-SAライセンス下で公開されています。

「私が個人的に好きなエピソードは“Your Copyright Can Kiss My Ass”(“あなたの著作権なんて関係ねえ”)という番組です」とウルフさんはいいます。「その番組は既存の伝統的なメディアが新しい配信メディアに適応するまでどれほど時間がかかったかということについて説明しています。私たちは著作権の概念をできるだけ拡張するという強い姿勢を打ち出しました」とウルフさんは言います。

ファンたちは番組についているCCライセンスを利用して、エピソードをアップロードして共有したり、ディアスさんやウルフさんが番組をPRするためにも利用したリミックス版を作成したりしています。「私たちにユーザーが作成したマッシュアップ作品があったので、自分たちで宣伝広告を作成しなくても何ヶ月分ものコンテンツがもたらされました。視聴者が番組に対して支援・関与する素晴らしい方法でした」とウルフさんは言います。

「私たちにはユーザーが作成したマッシュアップ作品が何ヶ月分もありました。それは視聴者が番組に対して支援・関与する素晴らしい方法でした」

詳細

<http://epicfu.com>



フランシス・ピンター BLOOMSBURY ACADEMIC

開かれた出版

ロンドン

学術誌は情報の宝庫ですが、入手が困難であったり、高価であったりします。この点について、ロンドンにある出版社ブルームズバリー(Bloomsbury)は、クリエイティブ・コモンズ・ライセンス下で、非営利目的使用のオンラインバージョンの研究出版物を無料で配信することによって、変革をもたらそうとしています。会社のウェブサイトは、関連度ランキングやソーシャルネットワーキング共有ツールのような機能を利用して、ユーザーが学問分野・テーマ・場所・日付などによりコンテンツを検索できるようにしています。

Bloomsbury Academic では、現在、CCライセンスによって10の権利を取得しており、ノーベル賞受賞者であるジョン・サルストン(John Sulston)さんが編集した「Science, Ethics, and Innovation(科学・倫理・革新)」と呼ばれるシリーズを含むさまざまな分野のものがあります。無料バージョンは文書共有サイトScribdが配信しており、ハードコピーやその他の電子コンテンツはBloomsburyが継続して販売しています。

「出版社は、コンテンツを無料で入手できるようにすると、出版物の販売が破綻するのではないかと心配しています。しかし、我々は、特定の書籍を無料配信することによって、出版物の販売が促進されると信じています。我々は、新興企業として正当化されるために、いち早くクリティカル・マスに達する必要がありました。」と、Bloomsburyの発行者フランシス・ピンター(Frances Pinter)さんは言います。

「出版社は、コンテンツを無料で入手できるようにすると、出版物の販売が破綻するのではないかと心配しています。しかし、我々は、特定の書籍を無料配信することによって、出版物の販売が促進されると信じています」

詳細

<http://www.bloomsburyacademic.com>



ダン・ザッカニーノ INDABA MUSIC

国境なき楽曲たち

ニューヨーク

「人々は長い間国境を超えて音楽の楽曲を送り合ってきました。私たちはこのことを組織的に実現できるようにしたかったのです」と、作詞家でギタリストのダン・ザッカニーノ(Dan Zaccagnino)さんは言います。

そこで2007年2月に、ザッカニーノさんとほかのミュージシャン4人が集まってIndaba Music という名前のグローバルなネットワークとコラボレーションを可能にするプラットフォームを立ち上げました。クリエイティブ・コモンズ・ライセンス下で会員は自分の楽曲をアップロードしたり、ほかの会員の制作コンテンツを利用してリミックスを作ったり、または共同のプロジェクトでコラボしたりすることができます。また、サイト上の「Opportunities」セクションでは、無償または有償で完成曲や制作途中曲を募集するリクエストがご覧されています。

Indaba ではコンテストも主催しており、ピーター・ガブリエルやウイザー、スヌープ・ドッグ、ヨーヨー・マといった有名アーティストの楽曲を使用した実験的な制作に参加することができます。このようなプロジェクトから生まれたリミックスはクリエイティブ・コモンズ:CC BY-NC-NDライセンス下で誰でも入手できるようになり、草の根アーティストと名声が確立したアーティストとのコラボレーションが広く行われることを容易にしています。

Indaba には既に200カ国以上から5万4千名 名以上の会員がおり、彼らの存在は適切なツールが与えられれば自由は創造性を支援することができるということを証明しています。2010年の終わりには、オルタナティブ・ロックバンドのマーシー・プレイグラウンドが最新のアルバム『Leaving Wonderland... In a Fit of Rage』の全楽曲の全ての要素をクリエイティブ・コモンズ・ライセンス下で公開し、それらを基にIndaba の会員が制作したりリミックス楽曲で2枚目のアルバム『Indaba Remixes from Wonderland』を制作することができました。

また、大手レコード・レーベルの取り組みとしては異例なことに、このリミックス・アルバムに貢献した全ての会員がアルバムの印税収入を受け取っています。「最初はかなりの反対がありましたが、CCライセンスを使用することはかなりの利点があるということをミュージシャンやレコード会社に証明してきました」とザッカニーノさんは言います。

「最初はかなりの反対がありましたが、CCライセンスを使用することはかなりの利点があるということをミュージシャンやレコード会社に証明してきました」

詳細

<http://www.indabamusic.com>



カート・スミス

完全にオープンになった『Halfway Pleased』

ロサンゼルス

1980年代の絶頂期、ロックバンドのTears for Fears(ティアーズ・フォー・フィアーズ)は大学ラジオ局のお気に入りからメインストリームへと素早く駆け上がり、成功を収めました。彼らはアルバムを2,200万枚販売し、『Shout.』と『Everybody Wants to Rule the World.』は途方もないほどの人気のロック・アンセムになりました。

今日、リードシンガーでベーシストのカート・スミスさんは作品の販売をまったく気にしていません。2007年、スミスさんはクリエイティブ・コモンズ・ライセンスで半自伝的ソロアルバム『Halfway, pleased.』をリリースしました。「完全な著作権のもとでは、ティアーズ・フォー・フィアーズの楽曲を使用するための許可が必要な人々からの請求が殺到していました」と彼は言います。「いまでは、私の歌はクレジットを行い、利益を得たりしない限りは、許可を得なくても好きなように使用できます」

結果として、スミスさんはライセンス要求を処理する手間が無くなり、彼は作曲というべき事に集中できるようになりました。スミスさんは現在アルバムサイズの楽曲集を作成しており、順次公開されるこれらの楽曲はMP3で無料ダウンロード可能です。まさに時代の趨勢を反映したと言える「ソーシャル・メディア・プロジェクト」の名の下に作成されるそのアルバムの各トラックは、スミスさんがFacebookやTwitterで知り合った人達との共同作業で作成されています。

「CCはどんなアーティストにとっても賢明な方法です。だれが自分のファンを訴えたいと思うのでしょうか？ 人々が私の音楽で好きな事をするのはとても喜ばしいものです。私はそれを皆さんに聴いてほしいのです。」

「CCはどんなアーティストにとっても賢明な方法です。だれが自分のファンを訴えたいと思うのでしょうか？」

詳細

<http://curtsmithofficial.com>



ジョアン・
バチスタ・シアコ
FIAT

新しいカー・デザインにおけるアイデアの招待

サンパウロ

次の試作車がどのような形であるべきかをデザイナーに決めさせるかわりに、自動車メーカーのFiat(フィアット)はアイデアを一般公募することにしました。1年ちょっとの間で、160カ国から100万人以上が『Mio』の設計サイトを訪問しており、駆動力、安全性、デザイン、材質、エンターテインメント性など、10,000件以上の独創的なアイデアを提供しました。すべてのアイデアが公開され、クリエイティブ・commons・ライセンスで世界中から閲覧できます。

「弊社は、顧客との対話を最重要視し、将来の事業を変革していくため、顧客のニーズを理解したうえで、自動車産業の保守的な考え方を変えなければならないと考えています。」と、フィアット・オートモービルズ社の広報兼リレーションシップ・マーケティングディレクターのジョアン・バチスタ・シアコ (João Batista Ciaco) さんは言います。

このようなアイデアの開放とコラボレーションで、とても独創的な発想による車が試作されました。Mioはスマートな小型車量で、90度回転の車輪、太陽光や風雨など多様な気候条件に対応するフロントガラス、運動エネルギー回収システム等の機能を備えています。試作車の設計もクリエイティブ・commons・ライセンスを取得しているため、芸術家や競合自動車会社の設計者は、今後このようなアイデアを彼らの仕事に取り入れることができます。

ほとんどの詐作車と同じように、Mioも製造されないかもしれません。しかし、Mioで提案される革新性や方向性は、将来うまくいけば、Fiatでの設計に取り入れられる可能性があります。CCライセンスのおかげで、このように良いアイデアを自動車産業全体に広く普及させることができるのです。

「弊社は顧客との対話を最重要視し、将来の事業についての考え方を変革していきます。」

詳細
<http://www.fiatmio.cc>



ヴィンセント・ムーン

CCライフスタイルを生きる

パリ

映画賞の受賞経験もあるヴィンセント・ムーンさんには遊牧民のような気質があります。彼には家がなく、所有物といえばわずかな衣服、書籍、ハードドライブ、録音装置、古いノートPCくらいです。また、彼は幻想的なミュージカル映画を制作する才能に秀でた人物です。

ムーンさんのオリジナル作品のすべてがクリエイティブ・コモンズ:BY-NC-SA ライセンス下でリリースされています。つまり、しかるべきクレジット表示がされていて、使用目的が非営利であれば誰でも作品を共有したりリミックスできます。

「私はクリエイティブ・コモンズ・ライセンスの条件で人生を過ごしているようなものです。」と、CCが促進している「共有」という社会に彼自身が積極的に参加していることを強調します。「私は映画を制作し、その代りに滞在する場所や食べる物を得ているのです。映画制作は人々に出会ったり、旅行したり、学んだりするための口実で、カメラは言わば私の社交道具です。」

彼が2年前にこのようなライフスタイルを始めて以来、現在31歳の彼の人生は、若かりし時に挫折し、放浪を余儀なくされた時と比べると、とても順調に進んでいるようです。2009年に制作した映画『La Faute Des Fleurs』がコペンハーゲン・インターナショナル・ドキュメンタリー・フェスティバルでサウンド&ビジョン賞を受賞し、世界中のミュージシャンを赤裸裸に記録する『Take Away Show』シリーズがYouTubeで大きな反響を得ています。

ムーンさんは現在、世界中で撮った映像を編集する新プロジェクト『Petites Planetes』に取り組んでいます。「私は今の時代の『制作者』とは?という問いの答えを求めべく世界を回っています。そしてこの目的を実現するためにCCライセンスは大切な役割を担っています。」

「私はクリエイティブ・コモンズ・ライセンスの条件で人生を過ごしているようなものです。」

詳細
<http://www.vincentmoon.com>



ダン・ギルモア

世界中にアイデアを広げる

サンノゼ

ジャーナリストのダン・ギルモアさんが2004年に『We the Media: Grassroots Journalism by the People, for the People (邦題『ブローグー世界を変える個人メディア』)』を書いたとき、この書籍全体をクリエイティブ・コモンズ BY NC-SA ライセンスのもとで出版することにしました。ギルモアさんは彼のすべての書籍の著作権を単独で所有することは得策でないと考えました。「世界中にアイデアを広めないことが大きなリスクだと思ったのです」

ギルモアさんは時事解説サイト Salon.com と契約を結び、そこで記事を公開した一週間後には自身のサイトでCCライセンスを付けて再公開している多筆なブロガーでもあります。「一部の懐疑的な見方の人達とは正反対のことを言うようですが、多くの人々がCCの仕組みを理解すればするほど、彼らはCCが著作権法の強力なサポーターであり、そして著作権というシステムの創始者に強い敬意を払うものであるということを認識するようになるのです」

2010年12月に、ギルモアさんは第二作目『Mediaactive』を出版しました。製本版はアマゾンで14ドルで手に入りますが、CC 表示-非営利-継承でライセンスされているので彼のウェブサイトで全内容をだれでも自由にダウンロードできます。出版されたあとの三日間で1500人が本をまるごとダウンロードしました。

CCが存在しなければ、『We the Media』はおそらく存在しなかったでしょう、とギルモアさんは言います。「米国の新聞や雑誌がこの書籍を無視したという事実をふまえると、私がこのようにしなかったらこのこと全体が跡形もなく沈んでいたと言っても間違いないでしょう」。周囲の人々の予想に反して、ギルモアさんは書籍の無料配信によって経済的な成功を収めることができました。「私は毎回半期ごとに今でも印税小切手を受け取っています。既に出版から6年たっていることを考えると、悪くない結果ですね。」

「世界中にアイデア
を広めないことが大
きなリスクだと思っ
たのです」

詳細

<http://dangillmor.com>



ニコラス・アルカラ RIOT CINEMA

配信してから収益化を考える

マドリッド

スペインの独立系映画会社である Riot Cinema Collective(ライオット・シネマ・コレクティブ)が『Cosmonaut』というSF映画の製作に取りかかったとき、収益を上げることよりも、より多く拡散することを重視したいと考えました。そのため、この映画の全ての予告編にCreative Commons BY-SA ライセンスをつけることにしました。

その結果、Riot CinemaはCCライセンス下でコンテンツを配信することの可能性を知ることができました。例えば、ファンの一人はオリジナルのアート作品を送ってきましたが、これが映画の公式ポスターに使われることになりました。別のファンは脚本の一部を改変しましたが、これが脚本の最終形に採用される結果になりました。予告編のリミックス・コンテストには、世界中から90もの作品が投稿されました。Riot Cinema Collective は『Cosmonaut』をアピールするため、カンファレンスなどでこれらの作品を用いています。別のコラボとしてLomographyという写真投稿サイトには400もの写真作品が投稿されました。

完成の暁には、映画の全てのバージョンが2種類のCCライセンス下でリリースされる予定です。高解像度バージョンにはBY-SA-NC、低解像度バージョンにはBY-SA がつけられます。「もしあなたが映画館、オンデマンドのプラットフォーム、新聞、テレビなどの媒体にCosmonautを公開することを希望するなら、高解像度バージョンが必要であるはずですし、こちらを使用するためには私たちと利用について合意する必要があります」と、創設者のニコラス・アルカラ(Nicolás Alcalá)さんは言います。「一方で、あなたが発展途上国の小さな映画愛好サークルや上映施設を持っていて、作品を上映するための資金が足りないなら、低解像度バージョンを商業用目的で利用することができます」

アルカラさんは映画にCCライセンスを付けることについてのほかのメリットも見つけています。「ベルリンの音楽制作会社のオーナーが、Cosmonautにインスピレーションを得た音楽を所属しているバンドに作ってみよう依頼しているそうです。これらの作品にはCCライセンスがつけられ、とてもクールなレコードを映画の関連商品として発表する予定だそうです。彼は音楽制作に出資していますが、利益は私たちとシェアする、と言っています。」

「あなたが作品を上映するための資金が足りないなら、低品質のバージョンを商業用目的で利用することができます」

詳細

<http://www.riotcinema.com>



スコット・ニクレンツ

ISABELLA STEWART GARDNER MUSEUM

大衆のためのクラシック音楽

ボストン

100年以上の歴史を誇るボストンのIsabella Stewart Gardner Museum (イザベラ・スチュワート・ガードナー美術館)には2,500点以上の美術品が展示されています。そしてここはクラシック音楽の配信において、最も進歩的な運動が起きている場所でもあります。美術館には、広大なアートコレクションに加えて、数百時間以上のライブ演奏が収録されているCDがいくつも保管されています。これらの録音は長年にわたって誰にも聴かれていませんでした。そこで、2006年9月、美術館の音楽専門職員スコット・ニクレンツ(Scott Nickrenz)さんは、クラシック音楽のポッドキャスト『The Concert』を始めました。「クリエイティブ・コモンズ・ライセンスについて知った時に、私たちがしたかったことはこれだと気付きました。高品質の録音を無料にして共有することは、我々にとって当初から非常に重要なことでした。」と、ニクレンツさんは言います。

『The Concert』は、2週間に1度、45分間放送されました。『The Concert』の成功の大きな理由は、オープンで入手できることです。「ポッドキャストと音楽図書館が始まって、最初の6週間で83カ国から40,000回以上がダウンロードされたことは、クラシック音楽のポッドキャストにとって前代未聞のことです。現在、月平均のダウンロード数は、50,000回になっています」と、ニクレンツさんは言います。

2010年12月現在、『The Concert』は、アゼルバイジャンからクロアチアに至るまで、190カ国のリスナーから180万回以上ダウンロードされています。「最も印象的だった出来事は、非営利ラジオ局を運営するフィリピンの尼僧の方達から問い合わせを受けたことです。CCのおかげで、ガードナー美術館はリスナーに素晴らしいクラシック音楽を提供することができています。」

「クリエイティブ・コモンズ・ライセンスについて知った時に、私たちがしたかったことはこれだと気付きました。高品質の録音を無料にして共有することは、我々にとって当初から非常に重要なことでした」

詳細

<http://www.gardnermuseum.org>



ケヴィン・ローバー FICLY

物語制作のコラボレーション

ワシントンDC

2007年、AOLのシステムアーキテクトであるケビン・ローバーさんは、AOLプラットフォームに Ficlet というオープンソース型の物語制作のウェブサイトを開発しました。AOLの弁護士は最初はあまり乗り気ではありませんでした。「クリエイティブ・コモンズ表示-継承ライセンス(CC BY-SA)を見たら、それがぴったりであることに気がつきました。このライセンスに同意する以外にはコンテンツへのユーザー規約はありません。」

Ficlet では、ほかの誰かが作り上げた1024バイトのCCライセンスの物語の断片に、前編や続編を追加したりする物語のマッシュアッププロジェクトに寄稿できます。わずか2年間で、12,000名のユーザーが48,000編の物語を書き上げています。ジョン・スコルジーや新スタートレックの俳優ワイル・ワイルトンなどの有名人も参加しています。

しかし、2009年1月には、AOLはFicletをオンラインから外し、ユーザーが制作したコンテンツすべてを廃止したのです。幸いなことに、すべてがCC BY-SAライセンスのものであったので、ローバーさんがレスキューして、新しいサイトにほとんどすべての作品を正式に再公開できました。

今日、ローバーさんはFiclyと呼ばれる文学のマッシュアップサイトを新たに所有しており、3,000名の共同作業ユーザーが制作した、CCライセンスのついた21,000編以上の物語が掲載されています。2009年5月以来、世界中のFiclyユーザーはあたらしいコンテンツに貢献しており、200万以上のページビューを牽引しています。あるユーザーはほかのユーザー達が選んだ数百編の物語をFicly編集本として自費出版しました。「私は人々の創造性を高めるようなものを作ることが大好きなのです」とローバーさんは言います。

「クリエイティブ・コモンズ表示-継承ライセンス(CC BY-SA)を見たら、それがぴったりであることに気がつきました。このライセンスに同意する以外にはコンテンツへのユーザー規約はありません。」

詳細
<http://www.ficly.com>

In our future

A CHILD BORN WITH A BIRTH
DEFECT LIKE MINE WILL
HAVE A GREATER CHANCE OF
SURVIVAL ANYWHERE IN

ヘザー・ラガード

INTRAEALTH

健康的な協力関係の構築

ワシントン DC

アフリカの医療従事者は常に移動しており、その移動情報を管理する良いデータシステムがないため、しばしば混乱が起きてしまいます。そのような背景から、2009年、IntraHealth International (イントラヘルス・インターナショナル) は IntraHealth Open を立ち上げました。これは、医療従事者どうしのコミュニケーション円滑化を支援するための、オープンソース・システムの開発を目的とする取り組みです。

この事業を通じ、アフリカの医療従事者はSMSで指示を共有したり、トレーニングやテストを行ったり、病気や医薬品の情報を管理できるようになります。医薬品の在庫は、保健省にリンクしている中央データマップからテキストメッセージで確認できるようになります。医師は、Google Healthを使うことで、医療情報を国境を越えて共有できます。

「私たちは技術と保険分野のハイブリッド化を目指しています。技術革新が地域に根差した形で影響力を持つようにし、効率を高めることで、実際の現場でよりよい医療活動が行われることを望んでいます」と、Intra Health Internationalのパートナーシップ・アドバイザーのヘザー・ラガード(Heather LaGarde)さんは言います。「オープンソースは、協力を促進し、地域の技術力を底上げしてくれます、地域の技術力を底上げしてくれます。オープンソースは、他者と技術革新を共有することを可能にするため、IntraHealthの方からの支援があまりなくても、それぞれの国にあった形のシステムが出来上がっていきます」

本製品発売の発表にあたりIntraHealthは、セネガル出身のグラミー賞受賞歌手・ユッサー・ンドゥール(Youssou N'Dour)のほか、ナス(Nas)、ダンカン・シーク(Duncan Sheik)、トゥーバブ・クレベ(Toubab Krewé)、DJ イコール(DJ Equal)、ピーター・バック(Peter Buck)、エステル(Estelle)、ビーフ・ウェリントン(Beef Wellington)などのアーティストとパートナーシップを組み、ンドゥールの歌『Wake Up (It's Africa Calling)』のリミックスを制作し、クリエイティブ・コモンズ・ライセンスで公開しました。その後開催されたリミックス・コンテストでは、世界中から500点以上のエントリーが寄せられ、全作品がCCライセンス下で入手できるようになっています。クリエイティブ・コモンズのツールを利用することによって、歌は自由に広がり、IntraHealthとその使命への理解と支援が高まりました。

「オープンソースは協力を促進し、地域の技術力を底上げしてくれます」

詳細

<http://www.intrahealth.org>



メリンダ・リー

UNCENSORED INTERVIEW

商用ライセンスの再考

ニューヨーク

Uncensored Interview (UI社)の創始者メリンダ・リーさんがMTV ネットワークの国際ニューメディア事業法務部に在籍していたとき、MTV が特定のコンテンツについて権利を持たなかったために、たくさんのチャンスを失っていることに気がきました。映像プロダクションでありライセンス会社でもあり、ファンにも番組プロデューサーにもアーティスト・インタビューを提供しているUI社で、彼女は現在、権利の取得にも譲渡にも取り組んでいます。

UI社ではヘンリー・ロリンズ、マーガレット・チョー、ジュリエット・ルイス、Mobyのようなバンドやパーソナリティへの1,000件以上のインタビューを行い、25,000の映像クリップにしました。ほとんどのクリップは一般的なライセンスシステムを使って提供していて、テレビ番組やポッドキャスト、コマーシャルでの利用のために権利は買われていきました。しかし、UI社は2009年3月、クリエイティブ・コモンズ・ライセンスの一番ゆるいライセンスであるCC:BYをつけてこれらのクリップのうち2,000作品を公開し、これによって誰でも営利目的でコンテンツを利用できるようになりました。

「我々はそれらを使って人々が何をするのかを見たいのです。そしてその行動を我々の企業戦略に生かしたいと思いました」と、リーさんは言います。今のところ、リミックスされたコンテンツはたいてい面白いマッシュアップになったり、さまざまなアーティストのプロフィールをクリエイティブにつなぎ合わせた作品になったりしています。リーさんは最終目標として、ソーシャルメディアにいるアマチュアたちにインスパイアされて、自分のコンテンツ制作にそれらを取り入れていくことだと言います。

厳しい著作権ルールをコンテンツに適用することで知られているGetty Imagesは、最近UI社のパートナーになりました。CC:BYライセンスのついた同じクリップがGettyのプラットフォームでも入手できる場合もあります。ただ、リーさんはまた、両社は相互排他的でないと言指します。「我が社にとって今後伸びうるコンテンツは非常に重要で、できるだけ多くの人々とパートナーでありたいと思っています」

UI社はミュージシャンのインタビューだけでなく、対象を食べ物、スポーツ、著者などに広めていて、クリエイティブ・コモンズ・ライセンス下でクリップを発表し続けていくつもりです。「それによってライセンスの許諾の仕組みがはっきりかえりました」と彼女は言います。彼女の会社ではCCのおかげで、基本的な権利処理に費やしていた不必要な時間を減らすことができ、「負担がだいぶ減った」そうです。

「我々はそれらを使って人々が何をするのかを見たいのです。そしてその行動を我々の企業戦略に生かしたいと思いました」

詳細

<http://www.uncensoredinterview.com>



Pierre Gérard

JAMENDO

ミュージシャンの市場性を高める

ルクセンブルク

ルクセンブルク出身のミュージシャン、シルヴァン・ジンマー(Sylvain Zimmer)さんは友人と音楽をオンラインで共有する便利で合法な方法がないと気づき、自分たちで作ることになりました。2004年に彼は二人のパートナーと共に、ミュージシャンが自分の楽曲を音楽を聞きたい人が誰でも入手できるようにクリエイティブ・コモンズ・ライセンス下で公開できるウェブ・プラットフォームであるJamendo (ジャメンド)を創立しました。Jamendoではフリーミアム・モデルが採用されており、すべてのコンテンツは一般に無料で提供され、CCライセンスが許可していない権利にアクセスしたものに対してのみ料金が請求されます。Jamendo は収益の50%をミュージシャンに還元します。

今日、Jamendoではクリエイティブ・コモンズ・ライセンス下で40,000枚以上のアルバムが無料で合法にダウンロードできます。ミュージシャンは毎日数百もの楽曲をアップロードしています。映画や広告、テレビ番組などの商業目的でJamendoの楽曲を利用するために有償ライセンスを購入する顧客が世界中に5,000社以上存在しています。

すでに一部のミュージシャンは素晴らしい結果を生んでいます。バルセロナ在住のインストゥルメンタル・アーティストのロジャー・スビラナ・マタ(Roger Subirana Mata)さんは2008年にJamendoに登録しました。以来、彼の楽曲は60万回以上再生され、300件以上の商業的な契約を結びました。JamendoのブログでMataさんはこう書いています:「一見すると矛盾するように思えますが、クリエイティブ・コモンズ・ライセンスで楽曲を提供することによって私の音楽はそれまでの通常のビジネスの世界にいた時と比べても、より需要を獲得し、商業的にも利用されるようになり、人々に知られるようになりました」

Jamendoの共同創業者であるピエール・ジェラルド(Pierre Gerard)さんはクリエイティブ・コモンズが事業の成功の礎であったと振り返ります。「私たちはミュージシャンたちにクリエイティブ・コモンズ・ライセンスとJamendo、そして自由な音楽という考え方が実効的で有益な音楽流通のオルタナティブであるということを知ってほしいのです。」

「私たちはミュージシャンたちにクリエイティブ・コモンズ・ライセンスとJamendo、そして自由な音楽という考え方が実効的で有益な音楽流通のオルタナティブであるということを知ってほしいのです」

詳細
<http://www.jamendo.com>

A man with long brown hair and a blue button-down shirt, looking surprised with his mouth open, standing in front of a wood-paneled wall.

マーク・「フロスティ」・マクニール DUBLAB

境界線を創造的にぼかす

ロサンゼルス

Dublab の中核は非営利のインターネットラジオ集団ですが、驚くほどクリエイティブな音楽と映像のリミックスプロジェクトの推進者としての使命も持ち合わせています。例えば2008年8月には、Dublab とクリエイティブ・コモンズ(米国)はInto Infinityと呼ばれるプロジェクトでコラボレーションしました。世界中のアーティストが、直径30センチの円形厚紙にビジュアルアートを描いたり、8秒のオーディオループを制作したものを、クリエイティブ・コモンズ・ライセンス下で応募するという企画に招待されました。その結果、ボートランドからベルリンまで、ビジュアルアーティストの作品150点とミュージシャンの作品110点以上が集まり、グローバルアート展示『Into Infinity』の出展作品として公開されました。

Into Infinity は特に日本で人気が高まりました。札幌のアーティストことぶき光は Into Infinity の音源を使って、センサーと音と映像の制御システムを取り付けた卓球のラケットを制作し、ボールを打つ度に異なる音源が再生されるというシステムを制作しました。Infinity Loopsというスピンオフのプロジェクトでは、東京在住の Coffee and Cigarettes BandがInto Infinity の8秒ループのみを使い30分以上のライブ演奏を行い、映像作家の DBKNが音源にインスパイアされて40余りもの映像を制作しました。2009年末にはクリエイティブ・コモンズ・ジャパンが Into Infinity から155個の音源と画像を利用してiPhoneとiPad用のアプリを制作し、現在までに6万回以上ダウンロードされ、そこから18,000以上のリミックス音源が生成され、その内の4,000件近くがツイッターで共有されました。

Dublab の最新のプロジェクトは『Light from Los Angeles』と呼ばれる映画で、10組のミュージシャンとバンドが CC ライセンス取得の楽曲を演奏しているの様子を記録しています。すべての映像は低解像度で、ぼやけた夢のような映像を作り出すトイ・カメラ Superheadz Digital Harinezumi を使って撮影されています。この映画の映像や音楽はすべて CC ライセンス下で公開され、書籍やDVD、レコードも販売されます。「これは CC ライセンス付きのコンテンツでどのようにお金を生み出すことができるかという刺激的な実験になるでしょう」と、Dublab の共同創始者であるマーク・「フロスティ」・マクニール(Mark "Frosty" McNeill)さんは話しています。

「これは CC ライセンス付きのコンテンツでどのようにお金を生み出すことができるかという刺激的な実験になるでしょう」

詳細
<http://dublab.com>



ティアゴ・セラ

ティアゴ・セラさんとレディオヘッドの頭

ボルトガル・ラメゴ

2008年7月に、グラミー賞を受賞しているオルタナティブ・ロック・バンド、レディオヘッド(Radiohead)は『House of Cards』という曲のためのミュージック・ビデオをリリースしました。このビデオはカメラを用いずに作られていました。従来のビデオカメラを使う代わりに、メンバーはデジタル・メディア・アーティストのアロン・コブリンさんに、昔のテレビからとってきたような 3D 画像データを作ることを依頼しました。彼らは画像データのコードを Google code サイトにクリエイティブ・コモンズ BY-NC-SA ライセンスをつけて公開しました。

画像データのオープンソースコードを公開したことで、思わぬ結果が生まれました。ティアゴ・セラさんという、ポルトガルのインタラクション・デザイナーが 3DソフトのBlender を使って立体モデルを作り、トム・ヨーク(レディオヘッドのボーカル)の頭を3D プリンターを使ってABS樹脂でプリントアウトし、彫刻を作ったのです。

コインブラ市で Hackerspace を共同設立したセラさんはレディオヘッドとコブリンの両方のファンで、Flickr と Vimeo に作品の製作過程の写真やビデオをアップロードしました。彼はこの 3D デザインを Thingiverse という物理実体のためのデジタル・デザインを共有できるウェブサイトに掲載しました。オリジナルの画像データが BY-NC-SA の CC ライセンスで公開されていたので、派生物であるセラさんの作品も同じように CCライセンス下でデータ公開されています。

トム・ヨークの頭で実験してから2年の間、セラさんは自分の作品で人々が遊んでいる様子を見てきました。「私は共有することは大切だと思っているので、いつも制作過程を写真やビデオで記録します。私自身が同じようなことをしている人たちから多くを学んだので、私も恩返しをするべきだと感じているからです」

「私は共有することは大切だと思っているので、いつも制作過程を写真やビデオで記録します。私自身が同じようなことをしている人たちから多くを学んだので、私も恩返しをするべきだと感じているからです」

詳細
<http://technofetishist.info>



モハメッド・ナナブヘイ アル・ジャジーラ

グローバル報道のより深い理解のための共有

ドーハ

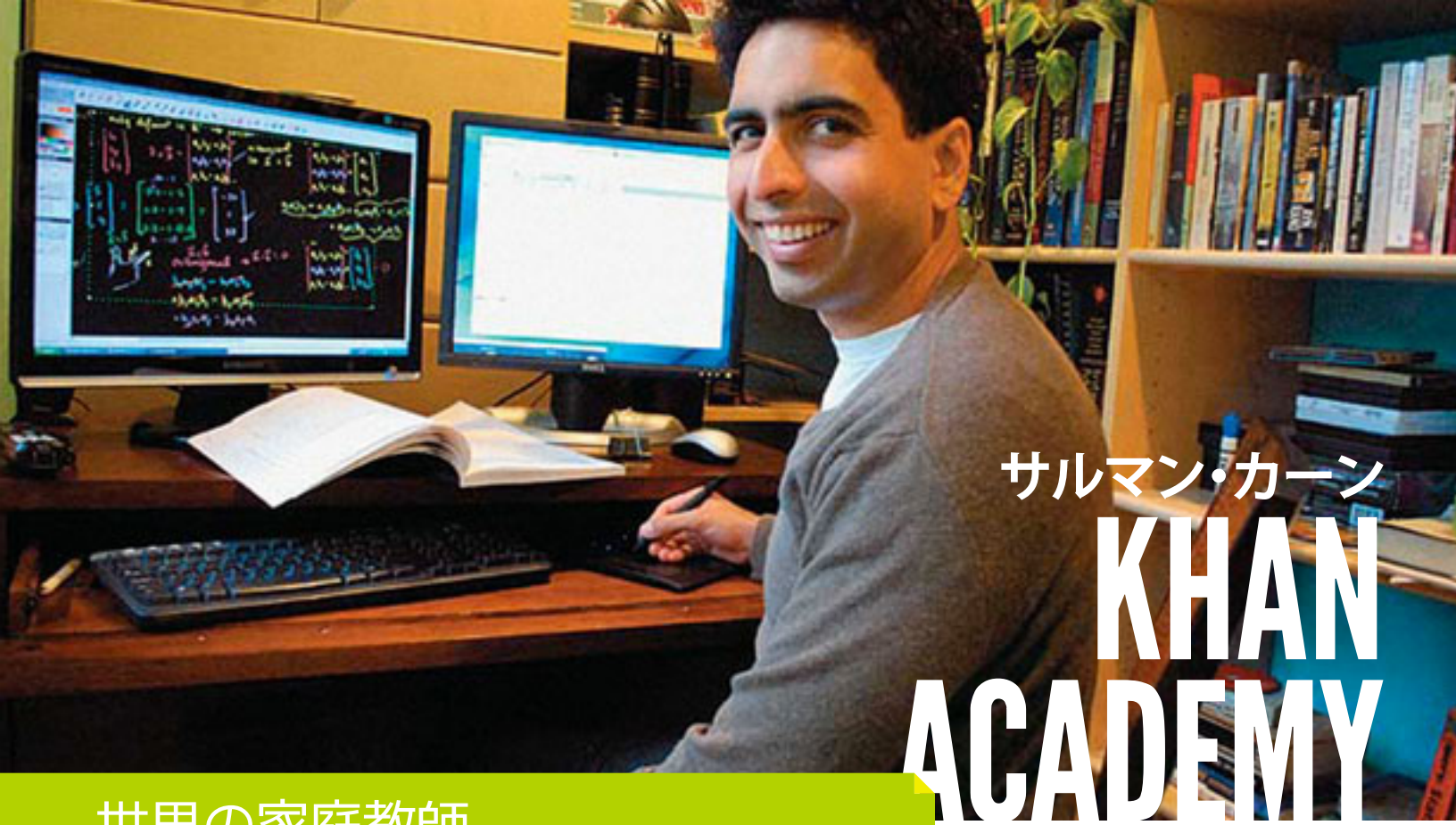
2009年にアル・ジャジーラは世界で初めての報道品質ビデオのレポジトリをクリエイティブ・コモンズ・ライセンス下で公開しました。このニュース・ネットワーク社はこれらのビデオをCC:BYライセンスで無償で公開し、世界中の誰でも、他のテレビ局でさえ、アル・ジャジーラのクレジットを表示さえすれば、自由にダウンロードし、共有し、リミックスを作ったり字幕を付けたりすることが可能になりました。

「自由な文化を受け止めるためには一定のコントロールを手放し、その代わりに創造的なコミュニティを支援するというより重要な価値を手に入れることだと思います」とアル・ジャジーラ英語版のオンライン担当のモハメッド・ナナブヘイさんは言います。CCライセンス付きビデオを公開して間もなく「嬉しい驚き」が起り始めたと言います。「教育者や映像作家、ビデオゲーム開発者や音楽ビデオのプロデューサーなどが私たちの報道ビデオを利用し新しい作品を作り始めたのです。」

他者にとってそれらの動画が価値ある利用が行われたとして、アル・ジャジーラにとってはどういう意義があったのでしょうか？ナナブヘイさんはアル・ジャジーラのコンテンツのアクセスや二次利用を許容することによって視聴者が、特にその場所のテレビでアル・ジャジーラの番組が見られない地域で増加したと言います。そしてその増加数は驚くべきものでした。ナナブヘイさんによれば、エジプトの民衆蜂起のビデオがCCライセンス付きで公開されてからレポジトリ全体の視聴数は723パーセントも増加したと言います。

「私は共有することは大切だと思っているので、いつも制作過程を写真やビデオで記録します。私自身が同じようなことをしている人たちから多くを学んだので、私も恩返しをするべきだと感じているからです」

詳細
<http://cc.aljazeera.net>



サルマン・カーン KHAN ACADEMY

世界の家庭教師

マウンテン・ビュー

サルマン・カーン(Salman Khan)さんが、Yahoo! のDoodle を使ってニューオーリンズの12歳のいとこにバーチャルな家庭教師を始めた2004年、彼はボストンでヘッジファンドを扱う仕事をしていました。このいとこの子はカーンさんの授業が気に入り、それならと、カーンさんは他の人々も学べるようYouTubeに動画を載せ始めました。2年もたたないうちに、カーンさんが作ったビデオは大注目されることとなり、彼はNPOを作り、仕事を辞めて、フルタイムで短い教育ビデオを作ることにしました。

カーンさんはすべてのビデオを自分で作り、クリエイティブ・コモンズBY-NC-SAライセンス下で公開しました。現在、Khan Academy では1,600本以上のビデオ教材を扱っていて、それらは化学から代数学、住宅危機の原因に至るまであらゆる分野にわたり、ひと月100万ユーザーが受講しています。カーンさんは正式には教育者ではありませんが、彼の教育方法は国内を超えて広まり、40%は海外の視聴者です。Khan Academy は非営利団体で、主に寄付金を資金源としていますが、その額は、毎年およそ3倍の割合で成長しています。近年は、ゲイツ財団の支援を得たことで職員を6名に増やすこともでき、ビル・ゲイツ氏がKhan Academyについてコメントしたことで、団体の認知度も飛躍的に上がっています。

カーンさんは現在も、Khan Academyの授業を聞いて成績が上がったとか、知らなかった知識を学べたという手紙を中高生や大学生、そして大人からも受け取っています。ビデオを自由にリミックスしたり共有できるので、ビデオは他の言語に翻訳されていき、その結果、授業によっては急速に世に広まったのです。

ヘッジファンドを扱う高所得者だった彼が本職を辞めてまでYouTubeビデオで生活していくことを決心した理由は何でしょうか。「ある日、私はひとりの学生から手紙を受け取りました。」とカーンさんは言います。「彼は大学に行った家族がひとりもない貧しい家庭で育ち、数学が大嫌いでした。そんなとき、Khan Academyのビデオを見つけて夏の間ずっとそのビデオを見たそうです。そして、彼はクラス分け試験の問題に全問正解しました。これはこのコミュニティ・カレッジでは前代未聞のことだったそうで、この学生は優等生になったそうです。これが私が仕事を辞めた理由です。」

「私が明日バスにはねられたとしても、このビデオ教材によって今後もまだ何百万人へと教えていくことができます」

詳細

<http://www.khanacademy.org>



グレース・チョイ

ヒューマン・ ライツ・ ウォッチ

事実で世界を変える

GLOBAL

1980年代以来、ヒューマン・ライツ・ウォッチ(Human Rights Watch、以下HRW)は、世界中の権利侵害についての指摘を続けています。客観的で徹底した調査に基づいて作成された報告書は数百万人の人々に読まれています。NGOであるヒューマン・ライツ・ウォッチの研究者は、インドでのテロ容疑者の監禁・拷問、イランの同性愛者に対する差別などの問題について、最大限の情報を集めるために、現場での調査活動に何ヶ月もの時間を費やしています。「我々は、世界で起きている出来事について、メディアのフィルターを通さない、客観的で正確な情報を提供しています。これによって、政府や関係する組織に変化を促すため圧力をかけています」と、HRWの編集長グレース・チョイ(Grace Choi)さんは言います。

すべてのHRWの報告書は、クリエイティブ・コモンズBY-NC-NDライセンス下で無料ダウンロードできます。「私たちの報告書を利用したいという要望は、大学や図書館から頻繁に來ています。彼らが利用しやすくするための法的な枠組みと提供するために、クリエイティブ・コモンズを活用するのが良いと考えました。私たちの報告書を普及させる最も簡単な方法です」とチョイさんは言います。

HRWでは毎年90~100件の報告書を発行しており、最近では、同じコンテンツを無料で提供するiPadアプリも発表しました。HRWの事例は、世の中のポジティブな変化がどのようにしてつくられるかを示す一例であり、CCライセンスの存在は、製本した報告書を配布することが容易ではない地域にとっては特に欠くことのできないものになっています。

「クリエイティブ・コモンズを活用することは私たちの報告書を普及させる最も簡単な方法でした」

詳細
<http://www.hrw.org>



マッシモ・バンツイ ARDUINO

ハードウェアのオープン化

ミラノ

2005年にイタリアのインタラクティブデザイナー、マッシモ・バンツイさんとデビッド・クアルティエレスさんは何か新しいことに挑戦しようと決めました。この二人はクリエイティブ・コモンズ BY-SA ライセンスをハードウェア・デザインに適用したのです。彼らはオープンソースの物理的コンピューティングプラットフォームを開発し、それを Arduino と呼びました。Arduino は回路基板が付いた単純なマイクロコントローラーで、スイッチやセンサーなどに簡単に対応するので、インタラクティブなシステムを自分で構築するのが好きな DIY ハードウェアマニアたちにとっては夢のようなシステムとなっています。

それから数年間、バンツイさんは Arduino が使われたシンセサイザーやギターのアンプ、または VoIP 電話ルーターなどの創造的で非常に成功したプロジェクトがたくさん生まれていくのを見守ってきました。Wired 誌の編集長クリス・アンダーソンさんは Arduino を使って空中を飛ぶ無人飛行体の DIY Drones という事業を開始しました。オープンソースで人気の高い3Dプリンター Makerbot は、Arduino 基盤モデルを使った頑丈な設計で構築されています。

Arduino の回路設計は CC BY-SA でライセンスされているので、Arduino から派生した事業も同様のライセンスの条件が適用されます。バンツイさんは208,000個以上のArduino 基板を販売し、毎年その売上は増加しています。また Arduino はオープンソースなので、チームは大規模な技術サポートサービスを提供する必要がありません。「Arduino のユーザーは私たち開発者を助けてくれたり、寛大に振る舞ってくれています」とバンツイさんは言います。「これは素晴らしい連鎖反応です」

バンツイさんは自身が教えていたデザインスクールが資金を全て失った時に、Arduino の資源をオープンソースにしよう決めました。状況が逼迫するのを目の当たりにした時に、バンツイさんは回路図を Berlios という Google コードと同じような機能を持つドイツのウェブサイトにアップロードし、ソフトウェアを GPL、ハードウェア設計を CC BY-SA ライセンスで公開しました。今日、このバンツイさんの行動の結果は、ただの無償公開された図面という以上の影響を引き起こしています。

「クリエイティブ・コモンズ・ライセンスのロゴを回路図や基盤レイアウト図の上に記載することによって、ハードウェア設計の分野をみんなが貢献できる文化の一部にまで昇華させることができた」とバンツイさんは言います。「今後私たちに何が起きようとも、このプロジェクトはずっと続いていくでしょう」

「クリエイティブ・コモンズ・ライセンスのロゴを回路図や基盤レイアウト図の上に記載することによって、ハードウェア設計の分野をみんなが貢献できる文化の一部にまで昇華させることができました」

詳細
<http://www.arduino.cc>



ジェイムス・パトリック・ケリー

読者に届けるために

ボストン

アメリカで高く評価されているヒューゴ賞とネビュラ賞を受賞しているSF作家のジェイムス・パトリック・ケリー (James Patrick Kelly) さんは、次回作を1章ずつクリエイティブ・コモンズ・ライセンス付きのポッドキャストとして公開していこうと考えています。ケリーさんは前回の小説『Burn』の成功を基に、この戦略の成功を信じています。

ネビュラ賞を受賞する前にケリーさんは『Burn』を伝統的な小さな出版社から刊行していましたが、読者層を増やすために自身のウェブサイトでも無償のポッドキャスト形式で配信を行っていました。CCライセンスについて知ったのはその時期でした。

「私はクリエイティブ・コモンズが開始するよりずっと前からウェブサイト上で作品を「開放」していました。なので友人のSF作家コリー・ドクトロー (Cory Doctorow) からCCライセンスの仕組みを聞いた時には、新しいデジタル文化を創ろうとしている企業がたくさんあり、そしてそのために私たちが依拠できる法的な基盤が存在することにとても安堵したのです」とケリーさんは言います。

「CCライセンス付きポッドキャスト版の『Burn』のリスナーが、実際に本を読んだ人の数よりも数千人以上にまで増えてきた」後にこの作品は受賞候補にノミネートされ、2007年には初めてCCライセンス付きSF作品がネビュラ賞を受賞することになりました。当時、このポッドキャストは余りにも人気が高かったため、ケリーさんのウェブサイトはアクセスできなくなってしまうほどでした。「私の記憶ではダウンロード数は15,000を超えていました...もしも私が無償で作品を公開していなかったら、このような人気を得られていなかったと思います。」

結果的に、クリエイティブ・コモンズ・ライセンスを利用することはケリーさんの名前をデジタル業界にも広めることに繋がりました。「私が思うに、現代の作家にとって最も狡猾な敵は何かというと、それは出版社でも盗作者でも海賊版コピーでもなく、誰にも読まれないということです。クリエイティブ・コモンズは、私自身が書いたことを誇りに思える物語を引き出しの奥底から掘り上げ、読者の目の前に届ける方法なのです。知名度と評判は新しいデジタル時代の貨幣なのです。」

「クリエイティブ・コモンズは、私自身が書いたことを誇りに思える物語を引き出しの奥底から掘り上げ、読者の目の前に届ける方法なのです」

詳細
<http://www.jimkelly.net>



ロビン・スローン

広めることの重要性

サンフランシスコ

ロビン・スローン(Robin Sloan)さんは、従来の出版方法には非常に障害が多く、中でも認知度を上げることの難しさを良く知っています。そこで、サンフランシスコ在住の短編フィクション作家でありカルチャーブログSnarkmarketを運営している彼は、別の方法をとることにしました。彼はKickstarterというアーティストやクリエイターが自分たちのプロジェクトをサポートしてくれる人を探すためのウェブサイトを通じて寄付を呼び掛け、初めての中編小説『Annabel Scheme』を出版することができました。

支援を増やすため、そしてユーザーが「デジタルブックと通常書籍両方の形態で、執筆を中断することを心配することもなく」彼の本をコピーし再配布できるように、スローンさんはクリエイティブ・コモンズ・ライセンス下で書籍をリリースすることを約束しました。『Annabel Scheme』はスローンさんの当初の目標を\$10,000 上回る資金を集め、2009年のKickstarterベストプロジェクトと認定されました。

スローンさんは派生著作物の制作を積極的に奨励しています。「私は色々な人が登場人物や設定を使って、クリエイティブなものを作って欲しいのです。CCライセンスは単なる消極的な利用許諾ではなく、リミックスを呼び起こすための積極的なメッセージとしての機能を期待したのです。」リミックスしてください!」と言って点滅する電光掲示板のようなイメージです。」

スローンさんは、クリエイティブ・コモンズがなければリミックスの挑戦はさらに難しいものであっただろうと言います。「どう使って、どう説明するか、にもっと時間を費やさなければならなかったでしょう。」ちょっと待った。これをリミックスするとしたら、誰が所有者なんだ?」みたいなやり取りを繰り返していったでしょう。」

CCはライセンスとしてだけでなく、世の中と彼の本やリミックス作品を共有し続けようとするクリエイティブな人々、つまり「今後自分の仲間になりうる人」と直接通信できるようになる手段にもなります。「私のようなステージにいる作家にとっては「広める」ということが最重要なのです。方法に関係なく、新しい人の手に作品のコピーが渡されることがすなわち成功となるのです。」

スローンさんの戦略は効果的なようです。『Annabel Scheme』を読む人の数は、オンラインで増え続けており、毎週それについてツイッターでもつぶやかかれ、多くの人々がPDF版をダウンロードしています。さらに、それらの人がKindle版(Amazon電子ブック版)も買ってくれるのです!」

「CCライセンスは単なる消極的な利用許諾ではなく、リミックスを呼び起こすための積極的なメッセージとしての機能を期待したのです」

詳細

<http://robinsloan.com>



公共の資源としての研究

サンフランシスコ

オープン・アクセス出版社であるPublic Library of Science (PLoS)は2003年に最初の科学論文誌『PLoS Biology』を刊行してから、急激な成長を経験しています。学術研究者は自身の研究内容の品質だけでなく、どこでその研究の論文が出版されたかということによっても評価されます。キャリアを深めていく過程で、資金調達の機会や良い評判といった賭け金を考慮し、研究者たちは研究発表先について選択的にならざるを得ません。

「私たちはオープンネスの考え方を支援する科学者たちとたくさんの意見を交換してきましたが、彼らは同時に私たちがまだ権威を獲得していないことや出版界との摩擦について不安を抱えていました」とPLoSの出版ディレクターであるマーク・パターソンさんは言います。「私たちはオープンネスを促進する団体として事業を開始したので、当初より支持者の基盤は持っていました。結果的には彼らの情熱が成功につながり、数名の研究者が勇気を持って私たちのオープンな論文誌で素晴らしい研究成果の論文を公開してくれました。その一例から全てが始まり、毎月数百の論文が公開される、持続可能で成長し続ける高品位のオープン・アクセス型研究の論文誌、という今日の私たちの地位に繋がったのです」

オープン・アクセス型論文誌の基本原則はインパクトです。「私たちはある研究が再利用され、研究文献という領域が新たな研究を生むための資源へと進化するための障害を全て取り除こうとしています」とパターソンさんは言います。「オープン・アクセスは資金提供者と研究者の双方に最大限のインパクトを提供しているのです」

パターソンさんは学術出版界の中でオープン・アクセスに踏み込もうとする動きがとて強くなっていると言います。「今日、より多くのオープン・アクセス型論文誌が刊行され、より多くの論文が公開され、資金を提供したりオープン・アクセスを推進する機関の中で新しいポリシーが制定されています。これは学術界の全てのステークホルダーに影響しています。現在の問題はこうした変化をどれだけ早く実現できるかということです」

クリエイティブ・コモンズ・ライセンスはオープン・アクセス型学術出版の成功を常に下支えしてきました。「CCライセンスは、オープンな形式で公開された研究論文を読者が自分の研究のために再利用できるということを一貫して伝える信号の役割を果たしています」とパターソンさんは言います。「専門家たちによって設計されて強固な法的基盤を持ち合わせているおかげで、CCライセンスはオープン・アクセス型出版にとっては必要不可欠の存在となったのです」

マーク・パターソン PUBLIC LIBRARY OF SCIENCE

「オープン・アクセスは
資金提供者と研究者
の双方に最大限のイン
パクトを提供してい
るのです。」

詳細:
<http://www.plos.org>

その他の声

推薦文

「あなたたちは我々に大切に貴重な何かを造り上げていく手助けをしてくださいました。その何かというのは、誰もが喜ぶべき、大きくて価値のある「創造」の生態系をサポートしてくれるものでした。クリエイティブ・コモンズは将来の健全な社会のためにさらに大きな役割を担うはずで、世界は何がリーズナブルでバランスの取れているものなのかを見極めるようになってきました。そして、それを実践するために、我々が作り上げてきたツールを使い始めたのです。」

ローレンス・レッシング
クリエイティブ・コモンズ創設ボードメンバー、
EDMOND J. SAFRA FOUNDATION CENTER FOR ETHICS
(エドモンド・J・サフラ財団倫理センター)



「Seed Media Group (シードメディアグループ) では、科学によって世界の状況を改善できる可能性を信じています。閉鎖的で、規制が多く、秩序のない多くの科学に関する情報が世界にはびこることによって、その可能性が妨げられている現状があります。科学者をもっと良い環境を与えられるべきです。そして社会はさらに良くなるべきです。Seedは革新的なオープン・サイエンスを進めるためにクリエイティブ・コモンズをサポートし、また一緒に動くことに大きな誇りを持っています。」

アダム・ブライ、SEED MEDIA GROUP

「クリエイティブ・コモンズは、現在浮上りてきている新しい音楽やメディア業界にとって欠かせない要素です。クリエイティブ・コモンズがコンテンツ利用の許諾だったり、フリー・カルチャーに関する意識を高めることについて管理していくことはとても重要です。私はこの動きを強力にサポートしていきたいですし、他の人にも同じことを勧めたいと思っています。」

ジョノ・バーコン、CANONICAL (カノニカル)

「クリエイティブ・コモンズは、簡単かつ効率的なツールを提供することによって、クリエイターたちが創作物を望んだ時に共有できるようにしています。その結果として共有しコラボできるようになることが、新しいかたちの創造性につながり、私たち全員を豊かにしてくれるのです。」

ミッチェル・ベーカー、MOZILLA FOUNDATION (モジラ財団)

「作家としての私の問題は作品を盗まれることではなく、誰にも知られないことです。クリエイティブ・コモンズのライセンスは私の著作物をタンポポの種のように、風に吹かれてあらゆる隙間に入り込み、思いがけないところに芽を出してしまうといったことを実現させました。」

コリー・ドクトロウ、作家

「Personal Genome Project (パーソナル・ゲノム・プロジェクト) は生物学データや生体組織をどんどん作り出しています。科学の発見や進歩を応援していくには、これらのリソースを広く提供できなくてはなりません。クリエイティブ・コモンズはそのためのツールを提供してくれている上に、明確かつ法的にも信頼できるのです。」

ジェーソン・ボープ、PERSONAL GENOME PROJECT

「全面的にオープンな姿勢を打ち出しているクリエイティブ・コモンズのライセンスは、プロモーションのための予算を持ってないアーティストにとって必須のものだと思っています。宣伝したり、人の耳につくほどラジオで流したりするお金がない場合、自分のファンが良心的に自分の音楽を広めてくれることを信じて頼るしかありません。その動きを違法な方法を取ることによって阻害してしまったら、それは自分の首をしめることになります。」

ブラッド・サックス、ミュージシャン

「我々は世界中のNPOの調査内容を集めています。そして、それらの内容のほとんどには再利用に関する情報がついていないか、がちがちの著作権表示がなされているかのどちらかです。我々は関係者たちにクリエイティブ・コモンズのライセンスをつけることを事あるごとに勧めています。なぜならクリエイティブ・コモンズのライセンスは極端な著作権表示や、我々が経験してきた著作権に関するその他の問題を和らげていくことができるからです。」

リサ・ブルックス、ISSUELAB (イシューラボ)

「クリエイティブ・コモンズはオープン・アクセス出版の成功のために重要な役割を担ってきました。このような形で出版しようとした出版社によるクリエイティブ・コモンズ・ライセンスの活用の広まりが何を意味するかというと、オープン・アクセスの記事が自由に読んだりダウンロードできるだけでなく、自由に再配布し、改変し、再利用できるということなのです。これはリサーチ結果についての効率的なコミュニケーションのためにも、次世代の研究者の教育のためにも絶対に必要なことなのです。」

マット・コッカリル、BIOMED CENTRAL (バイオメド・セントラル)

「人間として次のステップに踏み込んでいくとしたら、それはウェブスペースだと思います。特許を持っているメディア企業が未来を閉ざし、自由を阻むことを止めなくてはなりません。クリエイティブ・コモンズを応援することは私だけがそうすべきだと思っていることではありません。我々全員が応援しなくてはならないことなのです。」

イーベン・モグレン、SOFTWARE FREEDOM LAW CENTER
(ソフトウェアの自由の法律センター)''

「私は知識が広がり、多くの人の力で深められていくような世界に住みたいと思っています。クリエイティブ・コモンズはそうした情報共有を可能にする社会基盤を作っています。」

ジャック・ヘリック、WIKIHOW (ウィキハウ)

「クリエイティブ・コモンズは映像作家やその他の全ての種類のクリエイターに大きな価値をもたらします。CCのツールは作家が作品を共有する手伝いをしてくれるだけではなく、誰もが合法に自分の作品のために活用できる素材を探すための手助けにもなっているのです。私があるプロジェクトのために画像や音楽を必要としている場合、CCが支援してきた巨大な作品のプールの中から、誰でも共有し、利用しリミックスすることができる作品を検索することができます。私はBrave New Films上で自分の作品の多くをクリエイティブ・コモンズ・ライセンスを付けて公開していますが、それは他の映像作家が私の素材を新しく、面白い方法で使ってくれることを可能にするためなのです。」

ロバート・グリーンヴァルド、BRAVE NEW FILMS
(ブレイブ・ニュー・フィルムズ)

「クリエイティブ・コモンズは全員が利益を享受することのできるオープンなコミュニティを維持する上で非常に重要な役割を果たしてくれます。blip.tvにアップロードされた全動画の四分の一近くにCCライセンスが付けられています。コンテンツ制作者が望む形で他者が共有すること、そしてリミックスすることを促すことによって、コミュニティが成長しコンテンツが成長する機会を提供することができるのです。」

ジャスティン・デイ、BLIP.TV
(ブリップティーヴィー)

「すべては2003年に始まりました。Opsound.orgに『My Life』というギター曲をアップロードしたところ、およそ2ヶ月後にノース・キャロライナに住むコラ・ベス・ブリッジスという名の17歳のバイオリニストからメールが届いたのです。彼女は私の曲に手を加えて作った曲を『My Life Changed』と名付けました。私はその曲の素晴らしさに度肝を抜かれ、また自分と同じように時間や場所を超えてコラボレーションしたいと思っている人が他にもいるのだということを知って嬉しく思ったのでした。」

コリン・ムチラー、ミュージシャン

「クリエイティブ・コモンズは、TCP/IPやHTTPがオープンなウェブ、ネットワーク層とアプリケーション層を可能にしたのと同じような方法で、人々がコンテンツを共有・ミックス・再利用することを可能にする枠組みを提供しています。このオープンさがインターネットの最大の特徴です。クリエイティブ・コモンズはオープンなインターネットの重要な構成要素なのです。」

エリオット・ノス、TUCOWS (トゥカウズ)

「クリエイティブ・コモンズによって、創造行為は完成することなく、お互いのことを全く知らない人同士をコラボレーションさせるような新たな創造のプロセスへと変化します。それは芸術と文化のありうべきビジョンとしてもとても美しく、深い満足を与えてくれるものです。」

ジョナサン・クルトン、ミュージシャン

「私たちの文化は相互に作品を共有し、お互いの偉大さの上に創造を重ねる人々を抜きにして発展できません。クリエイティブ・コモンズ・ライセンスは創造的な人々がお互いに作品を共有し、私たち全員のために世界をより良い場所にするための最適な方法なのです。クリエイティブ・コモンズが存在することは幸運なことであり、数年に渡って彼らの仕事を支持してきたことを誇りに思います。」

クリス・ディボナ、グーグル

「私は次の世代において世界中の知識をオープンにし、情報アクセスの欠如に基づく窮乏を削減もしくは消滅させることができると強く信じています。クリエイティブ・コモンズはその革命を実現するための文化的協定に決して欠くことのできない部分なのです。」

エヴァン・プロドロムウ、STATUSNET
(ステータスネット)

「クリエイティブ・コモンズは情報の共有とアクセス、そしてコラボレーションを増加させることによって破壊的イノベーションを推進しています。情報と資源が豊富な精神の持ち主たちのもとへ自由に放浪することによって次世代が築かれています。クリエイティブ・コモンズはそのための開始点なのです。」

シャロン・テリー、GENETIC ALLIANCE
(ジェネティック・アライアンス)

「クリエイティブ・コモンズは、新しい種類の文化のためのインフラを構築することと繋がっています。その文化とは現代の民俗文化であると同時にそれまでのどの文化よりも大胆に洗練されたものなのです。」

ジミー・ウェールズ、ウィキペディア

「クリエイティブ・コモンズは、私たちが新しい法律を可決したり古い法律を廃止したりする労力を払う事なく、世界をもっと良く、面白い場所に変えることができることを示しています。クリエイティブ・コモンズを通して私たちは自分で作ったものを、自分の価値に沿った制約を付して、誰でも共有したいということを表明できるのです。そしてクリエイティブ・コモンズを設計した法律家たちのおかげで、このことを法律家の力を借りることなく実現できるのです。」

ジョナサン・ジットレイ、ハーバード大学ロー
スクール、パークマン・センター

「クリエイティブ・コモンズは私たちが自分のコンテンツに権利を付与するための重要なオルタナティブを提供しています。そのことによってコンテンツを他者と共有し、新たに制作し、公開することが容易になっています。私たちはCCをその初期から支援してきており、その意味でも新しい創造的なコミュニケーションの方法を開放することが非常に重要であると考えています。」

デイヴ・トゥーレ、OUTHINK MEDIA
(アウシンク・メディア)

「Luluは作家や教育者、研究者や他のコンテンツのクリエイターの問題を解決するために利用されています。私たちは出版における複雑な問題に対して革新的な解決方法を提案するクリエイティブ・コモンズに対応していることを誇りに思います。私たちは同じ目的を共有しています。それはクリエイターたちを支援し、彼らの作品を世界に届けるという目的です。」

ボブ・ヤング、LULU.COM (ルル)

What Is THE POWER OF OPEN WORTH?



Mike LINKSVAYER // VP, CREATIVE COMMONS

Measuring the contribution of something that is at once an idea, a movement and a platform – an enabler rather than an industry – is difficult. To give an idea of magnitude, a McKinsey Global Institute study published in May 2011 found that the Internet contributes 2.9% of global GDP, or \$1.7 trillion annually.^[1] The Internet is fundamentally based on open standards, and largely runs on free and open source software. In 2007 the Computer and Communications Industry Association found that the value added in the United States alone by industries dependent on copyright exceptions and limitations is \$2.2 trillion annually, or one sixth of the U.S. economy.^[2]

The power of open embodied in Creative Commons adds a new layer of openness to the open standards and software that run the Internet and creates a voluntary expansion of the default permissions to use knowledge based on copyright exceptions and limitations. How much is this new layer of openness worth? We don't have a currency-denominated number yet, though economists are studying the issue. One might begin by asking what is the value of Wikipedia? Of open educational resources? Of open access research? Of open government? Of legal sharing and collaboration by millions of artists and other creators such as those presented in this book?

Doubtless impressive, but answers to these questions would miss something fundamental: the value of open isn't merely static. The true power of open comes from creating an ecosystem in which innovating does not require asking permission. Some kind of electronic communications platform would exist if the Internet were not based on open standards and software. Collaboration and sharing of culture and knowledge would occur without Creative Commons. However, communications and collaboration would be less democratic, less participatory, more unequal, and innovation and growth would be stunted – the opposite of Creative Commons' vision. A good first approximation of the value of the power of open: priceless.

How Has ADOPTION OF CREATIVE COMMONS Grown?

A difficult question given the decentralized nature of the web, but not as difficult as measuring economic value. Since Creative Commons' first year, we have tracked the number of web links to Creative Commons licenses reported by search engine queries and the number of works licensed at major repositories. Derived from these a very conservative estimate of the approximate minimum number of licensed works at the end of each year is plotted below – from under 1 million works after the first year, to over 400 million at the end of 2010.

References: [1] http://www.eg8forum.com/fr/documents/actualites/McKinsey_and_Company-internet_matters.pdf
[2] <http://creativecommons.org/weblog/entry/7643>

VISUALIZING THE GROWTH

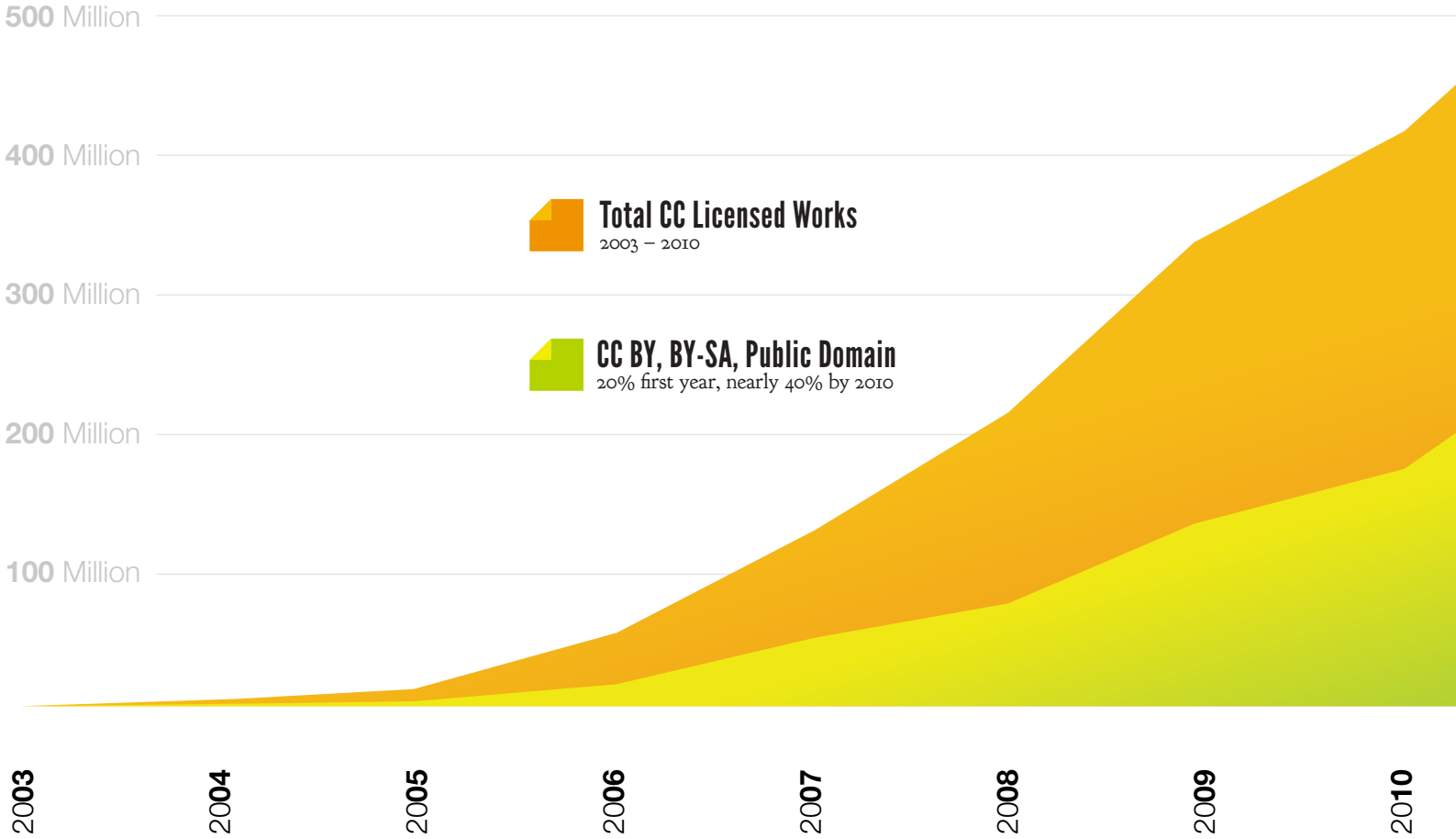
While this chart shows incredible growth, the absolute number of licensed works is probably far larger. Due to the conservative way we estimate, only numbers from Yahoo! Site Explorer and Flickr are actually reflected. The most significant adoption event in Creative Commons' history, the migration of Wikipedia and other Wikimedia sites to CC BY-SA starting in June 2009, is not directly reflected in the chart. Furthermore, due to changes at Yahoo!, even relative growth is probably understated starting around May 2010.

As use of Creative Commons licenses has grown, the mix of licenses used has changed. After its first year, only about 20% of works were licensed to permit in advance both remix and commercial use – that is, considered fully “free” or “open.” After 8 years, that proportion had approximately doubled.

This change seems to indicate that once creators have experienced the power of open, they want more of it!

400MM+
TOTAL CC LICENSED WORKS
AS OF 2010

40%
USING A FULLY OPEN
CC LICENSE
AS OF 2010



The Power of Open SUPPORTERS



BILL & MELINDA
GATES foundation

THE WILLIAM AND FLORA
HEWLETT
FOUNDATION

mozilla



PLoS

PUBLIC LIBRARY
of SCIENCE

JISC



OMIDYAR NETWORK™



MACARTHUR
The John D. and Catherine T. MacArthur Foundation

Microsoft



Microsoft
Research



wellcome trust

المجلس الأعلى للاتصالات و تكنولوجيا المعلومات
Supreme Council of Information & Communication Technology



faberNovel
ideas with legs

Silicon Sentier
Connecte et agit pour l'innovation